



応用生態工学会ニュースレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECES)

No.61

2013 (平成 25) 年 8 月 22 日 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: <http://www.ecesj.com/>

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田光一, 事務局長 小川鶴蔵)

目次

1	はじめに	2
2	第 17 回大会案内 (大阪大会)	2
3	次期役員募集・推薦委員会報告	25
4	行事案内と報告	26
4-1	応用生態工学会第 5 回フィールドシンポジウム in 北海道シンポジウム	26
4-2	北信越ワークショップ in 福井	28
4-3	「The 12th International Symposium on River Sedimentation (ISRS2013)」	30
4-4	第 3 回 遠賀川中島自然再生研究会の報告	32
5	理事会、幹事会報告	33
6	委員会報告	39
6-1	会誌編集委員会報告	39
6-2	情報サービス委員会報告	40
6-3	テキスト刊行委員会報告	41
7	書評 貧酸素水塊—現状と対策—	42
8	事務局より	42
8-1	2013 年度行事予定	42
8-2	変更したメールアドレス登録のお願い	44

1 はじめに

夏真っ盛りの中を、会員の皆様には各方面でご活躍なさっている様子が各地から聞こえてきます。

今回のニュースレターでは、第 7 回大阪大会の詳細が決まりましたのでご案内します。多くの研究発表申し込みを頂いた研究発表会プログラムとスケジュール等 応用生態工学会 第 17 回大会案内（大阪大会）のすべてを紹介しています。

このほか、6 月 1 日から 30 日のまでの間に応募いただいた、役員改選に関する次期役員候補について、次期役員候補・推薦委員会から、結果の公示文などを中心にお伝えします。

第 7 回大阪大会の 4 日目は、応用生態工学会 第 17 回総会のご案内です。

応用生態工学会 第 17 回 総会開催案内

応用生態工学会総会は下記で開催いたします。正会員の皆様のご出席をお願いします。

第 17 回総会は、応用生態工学会 第 17 回大会（大阪大会）の第 4 日目

1. 日時：平成 25 年 9 月 21 日(土) 10:30~11:30
2. 場所：大阪府立大学 I-site なんば（大阪市浪速区敷津東 2 丁目 1 番 41 号 南海なんば第 1 ビル）、C1, C2, C3 会場

なお、**総会の成立には正会員の 1/5 の出席が必要です**。総会に欠席される正会員の方は、すでに送信、送付済みの、送付する委任状及び第 9 期役員信任投票用紙（電子メールまたはハガキ）に必要事項を記入の上、9 月 2 日(金)までに、事務局までご返信くださいますようお願い致します。

なお総会資料は、8 月 25 日にホームページ上で公開する予定ですので、ご確認ください

2 第 17 回大会案内 (大阪大会)

応用生態工学会 第 17 回大会案内 (大阪大会)

2013 年 (平成 25 年) 9 月 18 日 (水) ~9 月 21 日 (土)

第 17 回総会・研究発表会・公開シンポジウム・自由集会・エクスカーショ

1. 大会概要

応用生態工学会では、2013(平成 25)年 9 月 18 日(水)~21 日(土)に大阪市にて、第 17 回大会を開催します。

9 月 19 日(木)~20 日(金)に行われる研究発表では、45 件の口頭発表、70 件のポスター発表が行われます。また、自由集会では幹事会主催のものも含め、9 つの集会が予定されています。

9 月 21 日(土)には、公開シンポジウム『都市河川の自然再生と防災を考える』を開催します。基調講演として、都市河川の環境全般に造詣が深く、韓国を代表する都市河川漢江をフィールドに、河川底生動物の立場から自然再生への提言やモニタリングを実施されてきた、アジアベントス学会の事務局長である Bae, YeonJae 教授 (高麗大学, 韓国) をお招きし、「清溪河の自然再生事業とその後」について講演頂き、国内の研究者・技術者との活発な意見交換を行えるシンポジウムとしたいと考えております。このシンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

大会の初日の 9 月 18 日(水)には、淀川や大川での自然再生現場・防災施設などを見学し、都市河川の自然再生と防災について考えるエクスカーショを行います。

なお、本大会は土木学会継続教育(CPD)プログラムに認定されています。

【会場】

研究発表・総会・公開シンポジウム：大阪府立大学 I-site なんば

住所：大阪市浪速区敷津東 2 丁目 1 番 41 号 南海なんば第 1 ビル

電話：06-7665-0441 (代表)

URL：<http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/map/index.html>

【大会日程】

9 月 18 日 (水)

- ・エクスカーショ ①バスコース 11:00~17:00
- ②船コース 16:00~18:00

9 月 19 日 (木)

- ・自由集会「【幹事会主催】放射性物質動態と流域生態系」 09:00~12:00 C3 会場
- ・自由集会「ダム下流生態系」 09:30~11:30 C2 会場
- ・自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う」 09:30~11:30 C1 会場
- ・ポスター発表プレゼンテーション 12:30~14:00 C1, C2, C3 会場
- ・ポスターコアタイム 1 14:00~15:00 A会場, ロビー
- ・ポスターコアタイム 2 15:00~16:00 A会場, ロビー
- ・自由集会「【幹事会主催】震災と環境対策」 16:00~19:00 C3 会場
- ・自由集会「河床の見方 - 水工学と生態学, 河川中上流域を中心として - 」 16:00~18:00 C2 会場
- ・自由集会「ダム湖エコトーン (水位変動帯) の応用生態工学」 16:00~18:00 C1 会場

大会の各プログラムは土木学会認定の CPD プログラムに認定されています。

9/18	エクスカーショ バスコース	3.6 単位
	船コース	1.8 単位
	バス+船	4.3 単位
9/19	研究発表会・自由集会 (1 日目)	8.0 単位
9/20	研究発表会・自由集会 (2 日目)	8.0 単位
9/21	公開シンポジウム	3.0 単位

CPD 単位は、実際に参加された時間数の認定とします



9 月 20 日 (金)

- ・ 口頭発表

	09 : 30～12 : 00	C1, C3 会場
	13 : 00～15 : 15	A, C1, C3 会場
- ・ 自由集会「震災復興に応用生態工学はどのような貢献ができるのか：岩手県大槌町での取り組み」

	15 : 30～17 : 30	C1 会場
--	-----------------	-------
- ・ 自由集会「応用生態工学会 テキスト刊行委員会」

	15 : 30～17 : 30	C2 会場
--	-----------------	-------
- ・ 自由集会「汽水域における空間分布モデル」

	15 : 30～17 : 30	C3 会場
--	-----------------	-------
- ・ 懇親会

	17 : 30～20 : 00	A会場, ロビー
--	-----------------	----------

9 月 21 日 (土)

- ・ 総会

	10 : 30～11 : 30	C1, C2, C3 会場
--	-----------------	---------------
- ・ 公開シンポジウム「都市河川の自然再生と防災を考える」

	13 : 00～16 : 00	C1, C2, C3 会場
--	-----------------	---------------

<参加／発表される皆様へ>

《受付》

- ・ 9 月 18 日(水)のエクスカーションは、各コースの出発時間の 30 分前より参加の受付を開始します(①バスコース 10:30 (新大阪駅団体バス乗場), ②船コース 15:30 (八軒家浜船着場))。
- ・ 9 月 19 日(木)は、9:00 から参加の受付を開始します。19 日(木)の受付は非常に混雑することが予想されます。早めに受付をお済ませください。
- ・ 9 月 20 日(金)は、9:00 から参加の受付を開始します。発表者のパワーポイントファイルの受付は 8:30 から行います。
- ・ 受付は 2 階ロビーで行います。名札をお渡ししますので、会場では必ず名札を付けてください。
- ・ 研究発表会参加費は、会員 6,000 円、学生 3,000 円、非学会員 10,000 円、費用には講演要旨集の料金が含まれます。懇親会参加費は一律 5,000 円です。大会運営をスムーズに行うため、事前申込および振込にご協力ください(発表申込は締め切りしましたが、参加は受付中です)。
- ・ 9 月 21 日(土)の総会は、10:00 から参加の受付を開始します。
- ・ 9 月 21 日(土)の公開シンポジウムは、12:30 から参加の受付を開始します。公開シンポジウムのみに参加される方は無料です。

《口頭発表される方へ》

- ・ 口頭発表は全て備え付けのパソコンと液晶プロジェクターで行います。パソコンの持ち込みはできません。OS は Windows 7, プレゼンテーションソフトは Power Point 2010 (Office 2010) です。Mac, 古いバージョンの Power Point, あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は、事前に Power Point 2010 で動作するか確認を行ってください(動作確認用を希望される方は会場係に申し出てください)。また備え付けのパソコンは、通常の Windows 7 日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます。
- ・ パワーポイントのファイルは、発表番号をファイル名とし、発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ、USB メモリ、CD-R で持参してください (MO, DVD, CD-RW は不可)。提出期限は以下のとおりです。

9 月 20 日(金)	午前セッション (A, B, E, F)	9:00 まで
	午後セッション (C, D, G, H, I, J)	12:00 まで

- ・ 発表時間は発表 12 分、質疑応答 3 分の合計 15 分です。1 鈴 : 10 分, 2 鈴 : 12 分, 3 鈴 : 14 分 30 秒です。時間

厳守にご協力ください。

- ・パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが、自分で操作される方は会場係にお伝えください。

《ポスター発表される方へ》

- ・ポスター発表の会場は、A会場およびロビーです。パネルにポスター番号を貼り付けていますので、ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください。
- ・ポスターは横 90 cm, 縦 180 cm 以内のサイズで作製して下さい。ただし縦のサイズは床からのパネル高さのため、見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします (A0 判 841 mm×1189mm を推奨します)。
- ・ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください。発表者が複数の場合は、代表発表者の名前の前に○印を付けて下さい。
- ・ポスターの掲示期間は 9 月 19 日(木)～20 日(金)の全期間とし、19 日(木)の 9:00～12:00 の間に持参者自身で掲示して下さい。19 日(木)の 9:00～12:00 の間の掲示が困難な方は、コアタイム時間帯を避けた可能な限り早い時間に掲示するようにお願いします。
- ・9 月 19 日(木)12:30～14:00 にポスター発表のプレゼンテーションを行っていただきます。プレゼンテーションは 1 人 1 分以内でお願いします。使用するパワーポイントのファイルは、発表番号をファイル名とし、発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ、USB メモリ、CD-R で持参してください (MO, DVD, CD-RW は不可)。提出期限は以下のとおりです。

9 月 19 日(木) 11:30 まで

- ・コアタイム 1 (発表番号末尾奇数の方) は、9 月 19 日(木)14:00～15:00、コアタイム 2 (発表番号末尾偶数の方) は、9 月 19 日(木)15:00～16:00 です。ご自身のコアタイムのスケジュールをご確認され、自分の該当するコアタイムでは、ポスターの前で発表を行って下さい。
- ・ポスターの撤収は 9 月 20 日(金)の 12:30 からの 30 分間に持参者自身で撤収して下さい。掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は、実行委員がポスターを取り外します。取り外したポスターは、大会期間中は実行委員会で保管いたしますが、大会後は処分します。
- ・ポスターの事前送付は、事故防止のため一切受け付けません。発表当日に各自で持参してください。ポスターを貼り付ける押しピン、セロテープは会場に準備しています。指示棒などは各自持参してください。
- ・PC などの電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが、電源はありません。また大きな音の鳴るデモンストレーションなど、周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください。
- ・申請のあった若手研究者、現場技術者または行政担当者の発表から優秀発表賞を選定します。研究の内容、プレゼンテーション技術などを基準に審査します。口頭／ポスターおよび研究／事例の各類別 (全 4 類別) について秀でた発表に優秀発表賞 (各若干名) を、最も秀でた口頭発表およびポスター発表に最優秀発表賞 (各 1 名) を授与します。
- ・21 日 (土) の総会 (10:30～11:30) に続いて、11:30～12:00 に優秀発表賞の表彰を行います。

2. 公開シンポジウム

＜このシンポジウムは、公益財団法人 河川財団の河川整備基金の助成を受けています。＞

【テーマ】

「都市河川の自然再生と防災を考える」

【企画のねらい】

水都と呼ばれる多くの都市は、河川とのかかわりの中で、固有の特色ある地史・歴史・文化を育み、河川の自然環境との共存を果たしてきました。しかし、近代から現代の流域開発や河川改修によって、都市河川の自然環境は、劣化の一途をたどりました。その反省のもと、韓国では清溪河、日本では淀川や多摩川で、自然再生事業が精力的に試みられてきました。一方、河口デルタに成立している都市は洪水・高潮・津波に弱く、東日本大震災では大きな被害を受けました。今後、東海・南海・東南海地震による大規模な被害が予測される太平洋沿岸域では、防災と自然環境の保全・再生を両立させる科学技術の確立が急務となっています。本シンポジウムでは、この両立をめざした課題整理と政策提言を目指します。

【公開シンポジウム プログラム(案)】

13:00 あいさつ 池淵 周一実行委員長

13:10 基調講演「清溪河の自然再生事業とその後」 Bae, YeonJae 教授(高麗大学, 韓国)

14:10 パネルディスカッション

コーディネーター:綾 史郎(大阪工業大学教授)

パネリスト:Bae, YeonJae(高麗大学教授, 韓国)

(話題提供) 田中 仁(東北大学教授)「津波による河川災害と環境の回復過程」

田井中 靖久(淀川河川事務所長)「淀川における自然再生の取り組み」

増田 昇(大阪府立大学教授)「水都大阪の景観」

竹門 康弘(京都大学准教授)「流域スケールの自然再生」

島谷 幸宏(九州大学教授)「自然再生と防災を両立させる政策提言の必要性」

16:00 終了予定

3. 自由集会

9つの自由集会が開催されます。集会には所属学会によらず参加でき、事前申込は不要です。

「【幹事会主催】放射性物質動態と流域生態系」

- ・企画：五味高志（東京農工大）・河口洋一（徳島大）
- ・日時：9月19日(木)9:00～12:00 会場：C3 会場
- ・内容：2011年3月の福島第一原発事故以降、福島県や周辺地域における水系網における放射性物質の動態や生態系への影響について、森林から農地や水田さらには沿岸域に至るまで、様々なモニタリングや研究が実施されている。福島県下を中心にさまざまなグループが、現在研究を進めておりますが、これまでのモニタリングの実施状況や研究成果について話題提供をいただき、それらの研究の横断的な意見交換を行うとともに、今後の長期的なモニタリングや調査の方向性、地域の資源管理の方向性、現地との協力、放射性物質対策などを含めて議論を進める予定である。

「【幹事会主催】震災と環境対策」

- ・企画：萱場祐一（土木研究所）・河口洋一（徳島大）
- ・日時：9月19日(木)16:00～19:00 会場：C3 会場
- ・内容：東日本大震災震災復興時の河川・海岸における環境対策に関する具体的事例を4人の演者から報告する。この報告を元に、研究者、行政、コンサルタント等の様々な立場から環境配慮を行う際の様々な課題を議論し、論点を整理する。また、今後起こりうる東海・東南海・南海地震等における復旧・復興において、効果的に環境配慮を行うために準備すべき内容等について議論を進め、応用生態工学として取り組むべき方向性について認識を共有することを試みる。

「河床の見方 - 水工学と生態学、河川中上流域を中心として - 」

- ・企画：原田守啓（土木研究所）・小野田幸生（土木研究所）
- ・日時：9月19日(木)16:00～18:00 会場：C2 会場
- ・内容：礫床河川の河床表層の状態は、ダム下流の粗粒化現象や土砂還元の取り組み等で注目されており、各所で研究が進みつつある。しかし、礫床河川の河床におけるマイクロハビタット研究は、学際的な取り組みが不十分であり、「浮き石、載り石、沈み石」といった定性的な見方からの進展が少ない。一方、海外論文をレビューすると、我が国の河川生態学におけるハビタット研究は、欧米にかなり遅れている印象をもたざるを得ない状況にある。川底は、土砂水理学、地形学とハビタット研究の双方の対象となる領域であるが、現在、日本には議論の場が設定されていないように思われる。応用生態工学会こそ、水工学（とりわけ土砂水理学、開水路の水理）とハビタット研究の共通言語としての議論の場ではないか？
以上の現状認識に基づき、本集会は、礫床河川の河床にまつわる水工学サイドの視点、生態学サイドの視点を下敷きに、国内外の研究動向のレビューと、国内若手研究者による河床のマイクロハビタットに注目した先進的な研究について紹介するとともに、今後の河床のマイクロハビタット研究の方向性について意見交換しようというものである。

「震災復興に応用生態工学はどのような貢献ができるのか：岩手県大槌町での取り組み」

- ・企画：久米学（岐阜経済大）・森誠一（岐阜経済大）
- ・日時：9月20日(金)15:30～17:30 会場：C1 会場
- ・内容：2011年3月11日、東日本大震災が発生し、東北地方沿岸に甚大なる被害をもたらした。岩手県大槌町では、人口の約10%の死亡行方不明と市街地の85%以上の壊滅という重篤な被災を受けた。震災から2年半が経過し、復興に向けた議論が進みつつある。その一方で、今後の復興に向けたまちづくりの方向性次第では、生物環境を

含む景観・風景は、人為的改変により甚大な影響を受ける可能性があるだろう。本集会では、応用生態工学という学問が、今後も起こり得る自然災害による被害軽減も視野に入れつつ、震災後の復興事業にどのようなスタンスをもって立脚し得るのか、について、岩手県大槌町での取り組みを事例に議論したい。

「ダム下流生態系」

- ・企画：辻本哲郎（名古屋大）・一柳英隆（水源地環境センター）
- ・日時：9 月 19 日(木)9：30～11：30 会場：C2 会場
- ・内容：ダムは河川の水を含む様々な要素（水、土砂、栄養塩、有機物など）のフラックス（経路と輸送量）を変化させることで下流生態系に影響を与える。水源地生態研究会の我々のグループでは、河川の潜在的な特性を踏まえつつ、ダムの下流生態系に対する影響と影響を軽減する方策の評価の枠組みをつくることを目的として 2008 年から研究を行ってきた。この自由集会では今までの成果の一部を報告し、多くの人と議論をすることで、評価に関する普遍的な仕組みをつくることを目指したい。

「ダム湖エコトーン（水位変動帯）の応用生態工学」

- ・企画：浅見和弘（応用地質）・一柳英隆（水源地環境センター）・谷田一三（大阪府大）・江崎保男（兵庫県立大）
- ・日時：9 月 19 日(木)16：00～18：00 会場：C1 会場
- ・内容：①アジアモンスーン気候下の日本では、毎年ほぼ決まった時期に洪水がある一方で、冬季には渇水となりやすい。これは日本の特徴であるが、ダムではこの特性を利用し、国土交通省、水資源機構管轄ダムの約 7 割が、非洪水期に水位を高く設定し、洪水期に水位を下げる「制限水位方式」を採用している。②「制限水位方式」のダムでは、洪水期と非洪水期で、毎年水位変動がみられるため、ダム湖畔には人工的なエコトーンが形成され、勾配の緩やかな斜面（水位変動帯）には植生が発達する。③ダム湖は、一般に同一規模の自然湖沼と比べて大きな集水面積を持つため、水や土砂の流入の影響を強く受け、河川流入部には独特な場が出来上がる。④堆砂や大きな水位変動に伴って、ダム湖では、自然湖沼とは異なった特徴の景観的・生態学的なエコトーンを形成され、生態学的にみてもユニークな存在である。

本集会では、これらを考慮し、ダム湖岸のエコトーンの成立過程、湖岸に生息する生物や生態系について紹介する。「ダム」というと、いままで生態系への悪影響ばかり取り上げられてきた感があるが、ダム湖ならではの生態系も存在する。ダム湖エコトーンの機能や実態に着目し、流域の生物多様性保全や水資源管理のためにダム湖エコトーンのあるべき姿について意見交換したい。

「小さな自然再生が中小河川を救う」

- ・企画：林博徳（九州大）
- ・日時：9 月 19 日(木)9：30～11：30 会場：C1 会場
- ・内容：昨年の ELR2012 東京では、自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！」が開催され、河道内における小さな自然再生の工夫に関する報告・議論が行われた。そこでは、岐阜県・兵庫県・福岡県における取り組みについて事例報告が行われ、「バイカモシヤンプー」、「バープ工」、「間伐材を用いた水制」など市民の手によっても導入可能なユニークな事例が紹介された。会場とのディスカッションの中では、「小さな自然再生を多自然川づくりの中での位置づけを明瞭にすべき」、「小さな自然再生の事例の集積・体系化が必要」、「市民参加の川づくりのツールとしても有効」などたくさんの意見が出され、活発な議論が行われた。本自由集会では、各地におけるその後の取り組みについて報告するとともに、昨年行われた小さな自然再生の議論を踏まえて、①多自然川づくりの中での小さな自然再生の位置づけや、②小さな自然再生を実施するうえでの課題と可能性について議論したい。

「応用生態工学会 テキスト刊行委員会」

- ・企画：萱場祐一（土木研究所）
- ・日時：9 月 20 日(金)15：30～17：30 会場：C2 会場
- ・内容：応用生態工学会テキスト刊行委員会では、成果の還元、会員へのサービスの向上を目的として、応用生態工学の入門書となるテキスト刊行を企画している。昨年度開催した自由集会では、テキスト刊行の考え方、そして、シリーズの内容、河道内氾濫原の概要についてディスカッションを行った。今年度は、現在執筆している河道内氾濫原のテキストの内容についてより詳細な報告を行うとともに、応用生態工学の入門の書として改善すべき点等について会場と議論を行いたい。

「汽水域における空間分布モデル」

- ・企画：乾隆帝（徳島大）・荒木田葉月（国立極地研究所・兵庫県立大学）
- ・日時：9 月 20 日(金)15：30～17：30 会場：C3 会場
- ・内容：汽水域は、生産力が高く、また汽水域特有の多種多様な生物が生息する。しかしながら、汽水域は人間活動により負のインパクトを受けつつあり、実際に多くの種が絶滅の危機に瀕している。そのため、近年は、汽水域生態系の保全や自然再生が課題となっている。そのような背景から、近年、汽水域を対象とした調査・研究は増えてきており、その結果、様々な種についての生態学的知見や分布データが蓄積されつつある。また、一部の河川については、横断形状や流量などの物理データも蓄積されてきている。しかしながら、現状ではそれらのデータが汽水域の保全・再生に有効活用されているとは言い難い。

これらのデータを汽水域の保全・再生に有効活用するための方法が、「空間分布モデルおよびモデル用いた潜在的生息地の地図化」である。広域スケールでの空間分布モデルは、国土の中で優先的に保全・再生すべき場所の選定に利用できる。一方、地盤高や底質など、詳細スケールのデータを用いた空間分布モデルは、保全・再生に向けた生息場の設計・管理手法を構築する上で重要な情報となる。様々な分類群において、広域から詳細なスケールの空間分布モデルを統合できれば、限られた時間・予算・資源の中で、効率的に汽水域生態系の保全・再生の生息場管理が行えるようになる。

そこで、本集会では、全国、流域、セグメント、マイクロハビタットといった複数の空間スケールにおける、鳥類、魚類、植物、無脊椎動物といった複数の分類群にわたる研究例を紹介する。本集会が、汽水域における様々な分類群・空間スケールの研究を統合し、総合的な汽水域の生息場管理のあり方について論じるための第一歩になることを期待している。

4. エクスカーション

大阪市は、淀川河口デルタ地帯に発達した都市であり、エクスカーションで訪れる淀川や大川（旧淀川）は、大阪都心部から約 6.0km の範囲内に位置しており、都市河川そのものです。

淀川では、都市近郊にありながら、多様な自然環境が残っており、また、自然再生事業にも取り組んでいます。

一方の大川（旧淀川）や大阪市内河川は、旧来からの都市河川の様相を呈している中でも、水都再生に関連して様々な取組が行われています。

エクスカーションでは、そのような都市河川の自然・歴史・文化および防災について、様々な視点から学びます。

【日時】

9 月 18 日（水）

※各コースとも定員は 40 名で先着順とします。

①バスコース

11:00 新大阪駅発 17:00 頃 大阪府津波高潮ステーション 解散

②船コース

16:00 ^{はちけんやはま}八軒家浜船着場発 18:00 頃 湊町船着場 解散

※①バスコースと②船コースに連続して参加される方は、途中の^{はちけんやはま}八軒家浜船着場でバスから船へと乗り換えになります（この場合、大阪府津波高潮ステーションは見学できません）。

【コース】

【①バスコース】 講師：河合 典彦先生(大阪市立城陽中学校・国土交通省淀川環境委員会委員)

上原 一彦氏(大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター・国土交通省淀川環境委員会委員)

新大阪駅 (11:00 発)

↓
十三干潟

目の前に広がる大阪都心部と十三干潟・西中島ヨシ原の景観を見学します。
また、干潟では、底生生物や魚類等の観察を行います。



十三干潟

↓
柴島再生干潟

高水敷掘削により再生された干潟を見学します。



柴島再生干潟

↓
淀川大堰

管理橋を渡りながら堰や魚道などを見学し、右岸から左岸へ移動します。

↓
毛馬水門・閘門, 毛馬排水機場・重文・毛馬第一閘門 (昼食)

昼食を兼ねて、水位差のある淀川と大川を結ぶ毛馬閘門, 国の重要文化財に指定されている毛馬洗堰, 毛馬第一閘門, 淀川改良工事に尽力した沖野忠雄像などを見学します。

↓
城北ワンド群

2005 年までイタセンバラが生息した淀川に残る最大規模のワンド群を見学します。



城北ワンド群

↓
赤川再生ワンド

自然再生事業で再生されたワンドで投網による魚類観察を行います。



イタセンバラ

↓
大阪ふれあいの水辺

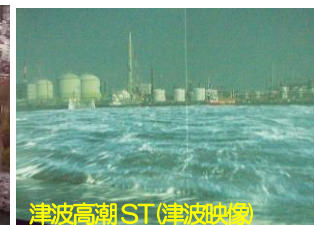
貯木場跡を利用して人工造成された砂浜の汀線で魚類や貝類などの生物観察を行います。



大阪ふれあいの水辺

↓
大阪府津波高潮ステーション

近い将来に発生が懸念される東南海・南海地震による津波災害を音と映像で体感します。



津波高潮ST(津波映像)

解散 (17:00 頃)

【② 船 コース】 講師：伴 一郎氏 (伴ピーアール株式会社)

八軒家浜船着場 (16:00 発)

↓
源八橋, 淀屋橋 (大川, 土佐堀川)

大阪市内の街並みや大川などに架かる橋梁を河川の中から見学します。



道頓堀川

↓
東横堀川, 道頓堀川

大阪市内の運河や閘門である道頓堀川水門の通航を体験します。

↓
尻無川水門

大阪港と接する尻無川河口にある巨大防潮水門を船の上から間近で見学します。



土佐堀川

↓
湊町船着場

解散 (18:00 頃)



尻無川水門

5. 懇親会

懇親会は、第3日目(9月20日(金))の研究発表(口頭)、自由集会の後、場所を移動せずに同会場で行います。大阪と言えば...?、本場の食材をとり揃えております。また毎回好評の「全国からうまいものを持ち寄る普及連携委員会」コーナーも充実しておりますので、ぜひご参加ください。

6. 参加申し込み方法

【申し込み先】

応用生態工学会ホームページの「参加申込フォーム」もしくはチラシよりお申込みください。申込期限は8月30日(金)、参加費のお振り込み期限は9月6日(金)です。

FAX・E-mail によるお申込は、『参加申込書』にご記入の上、下記までお申込下さい。

FAX 宛先：03-5216-8520 E-mail：osaka_17th@ecesj.com

応用生態工学会 URL: http://www.ecesj.com/J/events/annual/17th_meet/17th_meet.html

【参加料】

〔1〕研究発表会

会員：6,000 円、非会員：10,000 円、学生(会員・非会員)3,000 円。

参加料には講演要旨集が含まれておりますが、講演要旨集のみ希望の方は、3,000 円(送料 210 円もご負担ください)で販売しております。

※会場内に食堂等はありません。別途 1,000 円でお弁当が用意できます。参加申込みと同時に申し込みください。

〔2〕エクスカーショ

①バスコース 会員：3,000 円、非会員：4,500 円、学生(会員・非会員)：1,500 円(昼食代含む)。

②船コース 会員：3,000 円、非会員：4,500 円、学生(会員・非会員)：1,500 円。

※①、②コースの両方に参加される場合は各コースの参加料の合算となります。

〔3〕懇親会

一律：5,000 円。

【参加料振込先】

〔1〕郵便振替口座

口座番号：00140-7-404275

口座名称：応用生態工学会

〔2〕銀行振込口座

銀行名：東京三菱銀行麹町中央支店

口座番号：(普通)1302920

〔口座名称〕 応用生態工学会 (オウヨウセイタイコウガクカイ)

7. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL：.03-5216-8401 FAX：03-5216-8520

E-mail：Osaka_17th@ecesj.com

－ 会場へのアクセス・会場案内 －

【会 場】

大阪府立大学 I-site なんば

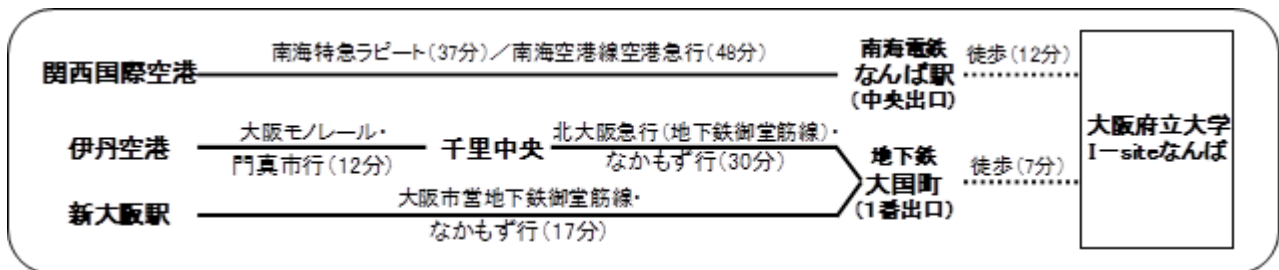
(大阪市浪速区敷津東 2 丁目 1 番 41 号 南海なんば第 1 ビル)

電話 : 06-7665-0441 (代表)

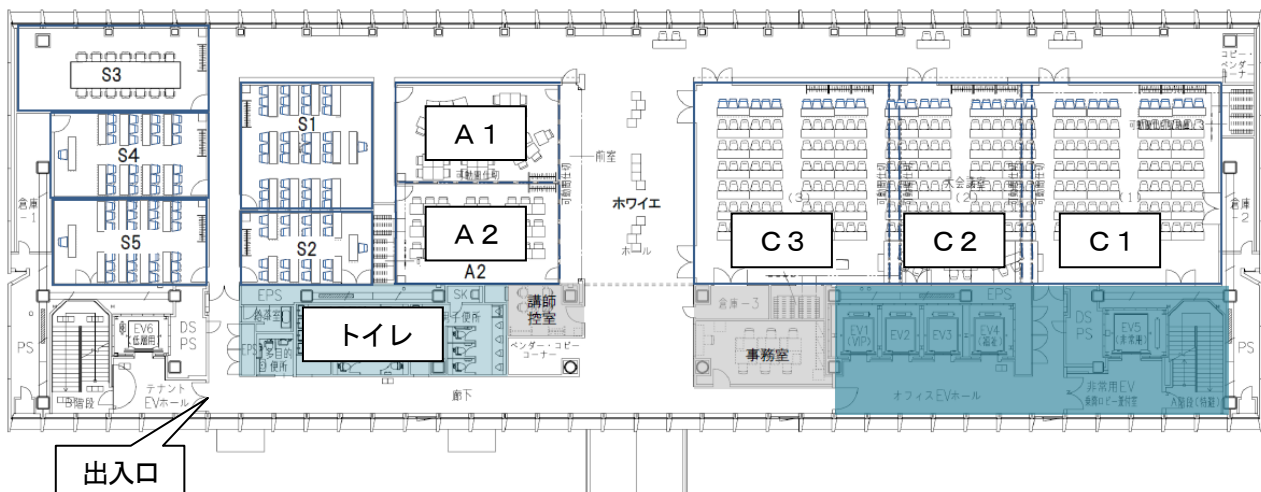
URL : <http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/map/index.html>



【会場までの主な交通機関】



【会場 配置図】



－ プログラム・会場対応表 －

全体スケジュール									
9月18日(水)		エクスカーション							
11:00	17:00	①バスコース							
16:00	18:00	②船コース							
9月19日(木)									
		C1		C2		C3		A	ロビー
9:30	11:30	自由集会	小さな自然再生が中小河川を救う		自由集会	ダム下流生態系	自由集会	(9:00-12:00) 【幹事会主催】放射 性物質動態と流域 生態系	休憩室
11:30	12:30	屋食							
12:30	14:00	ポスター 発表	プレゼンテーション						
14:00	15:00	控室		控室		控室		ポスター 発表	ポスターコアタイム
15:00	16:00								
16:00	18:00	自由集会	ダム湖エコトーン(水位 変動帯)の応用生態工 学		自由集会	河床の見方-水工学 と生態学、河川中上 流域を中心として-	自由集会	(16:00-19:00) 【幹事会主催】震災 と環境対策	
9月20日(金)									
		C1		C2		C3		A	ロビー
9:30	12:00	口頭発表	A. 河床の環境と変動 B. ダム貯水池環境	5 5	控室	口頭発表	E. モニタリング F. 環境評価	4 5	休憩室
12:00	13:00	屋食							
13:00	15:15	口頭発表	C. ダム下流の河床環 境 D. 底生動物	4 5	控室	口頭発表	G. 魚類 H. 生物相管理	5 4	I. 国際 J. 住民との協働
15:30	17:30	自由集会	震災復興に応用生態 工学はどのような貢献 ができるのか:岩手県 大槌町での取り組み		自由集会	応用生態工学会 テキスト刊行委員会	自由集会	汽水域における空 間分布モデル	懇親会準備
17:30	20:00	控室							懇親会
9月21日(土)									
		C1		C2		C3		A	ロビー
10:30	11:30	第17回総会							
11:30	12:00	優秀発表表彰式							
12:00	13:00	屋食							
13:00	16:00	公開シンポジウム「都市河川の自然再生と防災を考える」							休憩室

－ 研究発表会プログラム －

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

※発表者, タイトルの後の「研」は研究報告, 「事」は事例報告

口頭発表 9月20日(金)—3日目— 9:30~15:15 [C1会場]

セッションA 河床の環境と変動

- 9:30 A-1. **礫後流域の水理学的特性と水生昆虫群集との関係評価に関する礫床河川での現地実験:「研」**
古里栄一(埼玉大学大学院理工学研究科)・坂田良介^{*}(同 工学部建設工学科)・田中規夫(同 大学院理工学研究科/同 環境科学研究センター)
- 9:45 A-2. **多自然川づくりを導入した山地溪流におけるstep-pool構造の自律的回復過程:「研」**
島谷幸宏^{*}(九州大学大学院工学研究院環境社会部門)・劉 儀涛(同)
- 10:00 A-3. **航路確保を目的とした水制工設置による河川環境の応答について:「研」**
中西史尚^{*}((公財)河川財団近畿事務所)・綾 史郎(大阪工業大学都市デザイン工学科)
- 10:15 A-4. **流倒木による生息場形成と冠水頻度の関係:「研」**
寺田匡徳^{*}(京都大学大学院工学研究科)・竹門康弘(京都大学防災研究所)・Bertoldi W. (トレント大学工学研究科)・角 哲也(京都大学防災研究所)
- 10:30 A-5. **上西郷川における間伐材を用いた瀬淵環境再生工法の導入と効果:「事」**
林 博徳^{*}(九州大学大学院工学研究院)・島谷幸宏(同)・新 希一(福岡県)・岩瀬広継(福岡市役所)

セッションB ダム貯水池環境

- 10:45 B-6. **曝気循環設備を用いたアオコ・カビ臭抑制のための実証実験:「研」**
今本博臣^{*}((独)水資源機構環境室)・太田志津子(同)・田作光良(同)
- 11:00 B-7. **一庫ダムにおける浮草・外来アゾラの消長:「事」**
小坪洋巳^{*}((独)水資源機構一庫ダム管理所)・鈴木武(兵庫県立人と自然の博物館)・子川直樹((独)水資源機構中部支社)
- 11:15 B-8. **特定外来生物オオクチバスの繁殖抑制のための人工産卵装置の改良:「事」**
中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)
- 11:30 B-9. **三春ダムにおけるリフレッシュ放流を活用したブルーギルの繁殖抑制の試験的な取り組み:「事」**
沖津二郎^{*}(応用地質(株))・樋口貴哉(同)・中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)・大杉奉功((一財)水源地環境センター)・浅見和弘(応用地質(株))・土岐範彦(国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所)・松崎厚史(同 三春ダム管理所)・小山幸男(同)
- 11:45 B-10. **太湖流域における生態工学ダムによる水質改善の検討:「研」**
郝 愛民(九州大学東アジア環境研究機構)・久場隆広(同 工学研究院環境社会部門)・井芹 寧^{*}(西日本技術開発(株))・張 振家(上海交通大学環境科学与工程学院)・李 春杰(同)

12:00~13:00 — 休憩 —

口頭発表 9月20日(金)—3日目— 9:30～15:15 [C1会場]

セッションC ダム下流の河床環境

- 13:00 C-11. **生物にとっての河床構造を保全するための適度な土砂供給:「事」**
 渡辺 敏^{*}((株)ウエスコ)・藤原正季(同)・
 横尾和久(国土交通省温井ダム管理所)・堀井信裕(同)
- 13:15 C-12. **二瀬ダム下流河川における土砂還元の効果:非出水期における小規模河床材料の移動性に着目して:「研」**
 田中規夫^{*}(埼玉大学大学院理工学研究科/同 環境科学研究センター)・
 古里栄一(埼玉大学大学院理工学研究科)
- 13:30 C-13. **物理的攪乱と水生昆虫群集の関係—津田仮説に基づく新しい群集指標の提案と二瀬ダム土砂還元の影響評価への適用の試み—:「研」**
 古里栄一^{*}(埼玉大学大学院理工学研究科)・
 田中規夫(埼玉大学大学院理工学研究科/同 環境科学研究センター)
- 13:45 C-14. **札内川におけるフラッシュ放流に伴う水生昆虫の応答:「研」**
 渡辺のぞみ^{*}(北海道大学環境科学院)・根岸淳二郎(同)・植村郁彦(同)・
 中村太士(北海道大学農学院)

セッションD 底生動物

- 14:00 D-15. **河川性底生動物が持つ生態系サービス:藻類食者がシルトの堆積した付着藻類に及ぼす影響:「研」**
 森 照貴^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター)・
 高木哲也(同/応用地質(株))・加藤康充(同/同(株)建設環境研究所)・
 小野田幸生((独)土木研究所自然共生研究センター)・宮川幸雄(同)・
 萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)
- 14:15 D-16. **異なる河川底質におけるカワシンジュガイの生態的機能:「研」**
 高木優風花^{*}(北海道大学環境科学院)・根岸淳二郎(同)・
 布川雅典(北海道大学農学部農学院)・
 久米 学(岐阜経済大学地域連携推進センター)・
 照井 慧(東京大学大学院農学生命科学研究科)
- 14:30 D-17. **群馬県赤谷川水系茂倉沢において治山施設再整備が底生動物へ与えた影響:「研」**
 内田臣一^{*}(愛知工業大学工学部都市環境学科土木工学専攻)・
 兵藤峻基(同)・近藤高弘(同)
- 14:45 D-18. **千曲川中流域における自然再生事業により新規創生された瀬ハビタットにおける底生動物の新規定着と遺伝的多様性の変遷:「研」**
 斎藤梨絵^{*}(信州大学総合工学系研究科)・関根一希(生物資源研究所)・
 東城幸治(信州大学理学部)
- 15:00 D-19. **小水力発電のための取水が溪流生態系に与える影響:鳥取県加地川加地発電所の事例:「研」**
 大山璃久^{*}(九州大学大学院)・一柳英隆(九州大学大学院工学研究院)・
 林 博徳(同)・佐藤辰郎(同)・皆川朋子(熊本大学大学院)・
 中島 淳(福岡県保健環境研究所)・島谷幸宏(九州大学大学院工学研究院)

口頭発表 9月20日(金)—3日目— 9:30~15:15 [C3会場]	
セッションE モニタリング	
9:30 E-20.	現地放流実験を利用した魚道施設とその操作方法の改善に向けた検討とモニタリング:「研」 空閑徹也 [※] (東日本旅客鉄道(株))・森山泰明(同)・枡本 拓(同)・澤村里志(同)・永矢貴之((株)建設技術研究所)・澤樹征司(同)
9:45 E-21.	長期モニタリングの必要性和保全措置の考え方の留意点~ヒヌマイトンプの保全措置を通じて:「事」 瀬口雄一 [※] ((株)建設技術研究所)・羽尻光宏(同)・兼頭 淳(同)
10:00 E-22.	霞ヶ浦のアサザ植栽事業が示す自然再生事業の課題:「研」 山室真澄 [※] (東京大学大学院新領域創成科学研究科)・小室 隆(同)・加茂川優紀(同)
10:15 E-23.	休耕田を掘削して造成した湿地ビオトープにおける生物相の変化:「事」 中島 淳 [※] (福岡県保健環境研究所)・宮脇 崇(同)
セッションF 環境評価	
10:30 F-24.	インガイ類をモデルとした氾濫原再生適正地の抽出手法の開発:「研」 永山滋也 [※] ((独)土木研究所自然共生研究センター)・原田守啓(同)・萱場祐一(同)
10:45 F-25.	中小河川の河道内における生物生息場の確保に関する一考察:「研」 大石哲也 [※] ((独)土木研究所自然共生研究センター)・高岡広樹(同)・原田守啓(同)・萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)
11:00 F-26.	河川汽水域における底生動物群集とその生息場特性に関する考察:伊勢湾流域圏を対象とした河川環境データベースを用いた解析:「研」 田代 喬 [※] (名古屋大学大学院環境学研究科)・伊藤和馬(同 工学研究科)・李 楠楠(同 環境学研究科)・辻本哲郎(同 工学研究科)
11:15 F-27.	自然力による再生氾濫原の自己維持のメカニズム—アザメの瀬における二枚貝とヒシの定着および変動を例とする:「事」 劉 佳 [※] (九州大学大学院工学府)・林 博徳(同)・稲熊祐介(同)・島谷幸宏(同)
11:30 F-28.	霞ヶ浦底泥中に存在する生物由来リンの形態と間隙水中のリン濃度との関係: 篠原隆一郎 [※] ((独)国立環境研究所)・今井章雄(同)・川崎伸之(同)・小松一弘(同)・高津文人(同)・三浦真吾(同)・佐野友春(同)・佐藤貴之(同)・富岡典子(同)
12:00~13:00 — 休憩 —	

口頭発表 9月20日(金)—3日目— 9:30～15:15 [C3会場]

セッションG 魚類

- 13:00 G-29. **絶滅危惧種イタセンパラ個体群の遺伝的構造と保護管理策への提言:「研」**
北西 滋^{*}(水産総合研究センター)・西尾正輝(氷見市教育委員会)・
佐川志朗(兵庫県立大学／(独)土木研究所自然共生研究センター)・
上原一彦(大阪府水生生物センター)・小川力也(西野田工科高校)・
横山達也(大阪市水道記念館)・池谷幸樹(アクア・トトぎふ)・江戸謙頭(文化庁)
- 13:15 G-30. **ランダムフォレストを用いたタイリクバラタナゴと在来タナゴ類の共存パターン解析:「研」**
福田信二^{*}(九州大学大学院農学研究院)・山口真理恵(長崎市役所)・
鬼倉徳雄(九州大学大学院農学研究院)・平松和昭(同)・原田昌佳(同)・
中島 淳(福岡県保健環境研究所)
- 13:30 G-31. **減勢池がない河川横断構造物が仔アユの降河に与える影響に関する研究:「研」**
安田陽一(日本大学理工学部土木工学科)・
藤原 直^{*}(日本大学大学院理工学研究科)
- 13:45 G-32. **シロザケ個体群の多様性維持における河床間隙水および河川地形の役割:「研」**
ト部浩一^{*}(北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場)・下田和孝(同)
- 14:00 G-33. **電波テレメリーとビデオカメラを用いた繁殖期におけるナマズの移動行動の解明-繁殖水路への移動に着目して-:「研」**
森 晃^{*}(東京農工大学大学院連合農学研究科(宇都宮大学配置))・
後藤 章(宇都宮大学農学部)

セッションH 生物相管理

- 14:15 H-34. **地上徘徊性昆虫類の保全を目的とした這い出し側溝の1事例:「事」**
高柳茂暢^{*}(アジア航測(株))・山口一彦(同)・岩舘知寛(同)・高橋優香(同)・
藤田俊之(宮城県道路公社)・高橋 徹(同)
- 14:30 H-35. **河道内ヨシ群落の繁茂抑制に関する検討:「研」**
山西博幸^{*}(佐賀大学低平地沿岸海域研究センター)・
佐藤博志(国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所)・
川崎裕之(同 川辺川ダム砂防事務所)・山本佳久(同 武雄河川事務所)
- 14:45 H-36. **オオサンショウウオ生息環境保全策の現地試験:「研」**
久納 誠^{*}((独)水資源機構総合技術センター)・加藤正典(同 川上ダム建設所)
- 15:00 H-37. **霞ヶ浦の堤脚水路にみられる水生植物について:「事」**
片桐浩司((独)土木研究所河川生態チーム)・大寄真弓(同)・萱場祐一(同)

口頭発表 9月20日(金) - 3日目 - 13:00~15:00 [A会場]	
セッションI 国際	
13:00	I-38. Relations of aquatic habitat structure to reach-scale channel configuration and their historical changes in the Kizu River :「Case Study」 Mikyong CHOI [※] (Graduate School of Engineering, Kyoto University)・ Yasuhiro TAKEMON (Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University)・ Sohei KOBAYASHI (ditto)・Tetsuya SUMI (ditto)
13:15	I-39. Effect of calcium and magnesium on growth and calcite formation of <i>Chara fibrosa</i> :「Reserch」 Mudalige Don Hiranya Jayasanka Senavirathna [※] (Department of Environmental Science and Technology, Saitama University)・Takashi Asaeda (ditto)・ Yasuko Kaneko (Faculty of Education, Saitama University)
13:30	I-40. Performance of two invasive vines on contrasting floodplain soils subjected to different flooding regimes :「Reserch」 Md. Harun Or Rashid [※] (Department of Environmental Science and Technology, Saitama University)・Takashi Asaeda (ditto)
13:45	I-41. Vegetation change at Dam's downstream in the river channel of Japan :「Reserch」 Uddin F.M. Jamil [※] (Department of Environmental Science and Technology, Saitama University)・Takashi Asaeda (ditto)
14:00	I-42. Characteristics of Cross Sectional Shape and Sediment Dynamic in Meandering Rivers :「Reserch」 Hendra RAMDHANI [※] (Department of Civil Engineering, the University of Tokyo)・ Agus SANTOSO (ditto)・Takeyoshi CHIBANA (ditto)
セッションJ 住民との協働	
14:15	J-43. 「野崎詣り」に見られる寝屋川流域の親水景観と大阪の水環境 :「事」 芝崎美世子 (大阪市立大学大学院理学研究科)
14:30	J-44. 住民主体の河川環境保全・再生活動の活性化に関する分析 :「研」 神谷大介 [※] (琉球大学)・赤松良久 (山口大学大学院)・池田晴香 (山口大学)
14:45	J-45. コウノトリ・トキと共生する環境保全活動に対する意識調査ー豊岡市、佐渡市、鴻巣市の意識比較分析ー :「研」 川島秀男 [※] (埼玉大学大学院理工学研究科)・深堀清隆 (同)・浅枝 隆 (同)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

※発表者, タイトルの後の「研」は研究報告, 「事」は事例報告

ポスター発表 9月19日(木)—1日目— 12:30~16:00 [会場:A会場・ホール]	
12:30~14:00	ポスター発表要旨説明(概要1分発表).....C会場
14:00~15:00	コアタイム1(セッション末尾奇数番).....A会場・ホール
15:00~16:00	コアタイム2(セッション末尾偶数番).....A会場・ホール
セッションA 河床環境・河川地形	
PA-1.	木曽川における河床の露盤化と局所深掘れの変遷と実態:「研」 永山滋也 [※] (独)土木研究所自然共生研究センター)・ 根岸淳二郎(北海道大学地球環境科学研究科)・ 高岡広樹((独)土木研究所自然共生研究センター)・萱場祐一(同)
PA-2.	河岸が岩盤からなる河川における蛇行形態と瀬-淵構造特性の関係:「研」 橋口遥介 [※] (東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・原田大輔(同)・ 知花武佳(同)
PA-3.	洪水による礫河原の変形と粒度分布の変化に関する研究:「研」 日野将人 [※] (東京大学大学院工学系研究科)・原田大輔(同)・知花武佳(同)
PA-4.	出水に伴う河床の土砂堆積と河床間隙水内の細粒土砂濃度の変動:「研」 笠原玉青 [※] (九州大学農学研究院)・安田悠子(同)・大槻恭一(同)
PA-5.	地質が河床材料と河川生物に与える影響:「研」 池上 龍 [※] (熊本大学大学院)・皆川朋子(同)
PA-6.	礫床河川の砂礫州における伏流水流動特性—砂州の地形・土壌条件に着目して—:「研」 尾花まき子 [※] (東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・長井翔太郎(同)・ 知花知佳(同)
PA-7.	Spatial Variation of Stream-groundwater exchange in a Steep Headwater Stream:「研」 Sodouangdenh Somsanouk [※] (九州大学農学研究院)・笠原玉青(同)・大槻恭一(同)・ 恩田裕一(筑波大学アイソトープ環境動態研究センター)
PA-8.	巨礫を有する山地河川の流域・河道特性が土砂動態に与える影響とそのメカニズム:「研」 川口淳郎 [※] (東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・原田大輔(同)・ 知花武佳(同)
セッションB 氾濫原	
PB-9.	宮崎県北川における霞堤防が有する生態的機能の評価:「研」 富山雄太 [※] (九州大学工学研究院)・山下奉海(同)・佐藤辰郎(同)・島谷幸宏(同)
PB-10.	淀川楠葉地区の復元ワンド群の地形変動と自然再生:「研」 佐藤寛容 [※] (大阪工業大学大学院)・綾 史郎(大阪工業大学)・ 中西史尚((公財)河川財団近畿事務所)
PB-11.	タナゴ類、イシガイ科二枚貝の生息に好適な冠水頻度のたまりの抽出に関する航空レーザ計測データの活用について:「事」 池田欣子 [※] (アジア航測(株))・西井一浩(同)・竹門康弘(京都大学防災研究所)・ 木瀬龍也(国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所)
セッションC ダム下流の河床環境	
PC-12.	粗粒化した石礫河床への土砂供給が流れ場の構造に及ぼす影響:「研」 原田守啓 [※] ((独)土木研究所自然共生研究センター)・小野田幸生(同)・ 萱場祐一(同 河川生態チーム)
PC-13.	筑後川におけるフラッシュ放流パターンによる生物等の応答について:「事」 竹本 進 [※] ((株)建設環境研究所)・豊國法文(同)・ 岩下 良(国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所)
PC-14.	ダム下流河川における河川流況や濁度が大型糸状緑藻類に及ぼす影響について:「事」 井内拓馬 [※] ((株)建設環境研究所)・富田邦裕(同)・本間隆満(同)・ 福嶋 悟(藻類研究所分析センター)・ 羽澤敏行(国土交通省関東地方整備局相模川水系広域ダム管理事務所)・ 蘭 勝司(同)

PC-15. 天竜川における流況変動履歴が瀬の河床固化に及ぼす影響:「研」

栗津陽介^{*}(京都大学大学院工学研究科)・角 哲也(京都大学防災研究所)・
竹門康弘(同)・兵藤 誠(いであ(株))

PC-16. 嘉瀬川ダム湛水開始時の流況変化に伴う下流河道植生の変化—流況の平滑化は樹林化のトリガーとなるか?—:「研」

黒木啓孝^{*}(九州大学大学院工学府都市環境システム工学専攻)・
島谷幸宏(九州大学大学院工学研究院)・一柳英隆(同)

セッションD ダム貯水池

PD-17. 鶴田ダムにおけるボタンウキクサ(*Pistia stratiotes*)駆除の取り組み:「事」

森原百合^{*}(日本工営(株)中央研究所)・道家健太郎(同 福岡支店)・西川隆清(同)・
今村史子(同 中央研究所)・久保祐太郎(国土交通省九州地方整備局鶴田ダム管理所)

PD-18. 西之谷ダムにおける湿地環境創出型貯水池計画と創出された湿地の生物生息場としての機能評価:「研」

皆川朋子^{*}(熊本大学工学部)・井上剛介(同)・林 博徳(九州大学)・島谷幸宏(同)・
淵上祐史(東京都)・日高正明(鹿児島県)

PD-19. ダム湖におけるオオクチバス低密度管理の事例報告:「事」

笹田直樹^{*}((株)ウエスコ)・芹澤英一郎(同)・佐貫方城(同)・
中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)・
土江清司(国土交通省中国地方整備局苫田ダム管理所)

セッションE 河川管理

PE-20. 河川堤防の草地管理が繁殖鳥類に及ぼす影響—渡良瀬遊水地の堤防での調査結果から—:「研」

西 浩司^{*}(いであ(株))・山岸 哲((公財)山階鳥類研究所)・原田俊司(いであ(株))・
松沢友紀(同)・益子 理(同)

PE-21. 中国地方の一級河川における河川樹林化の要因分析～ヤナギ群落に着目して～:「研」

上鶴翔悟^{*}(山口大学工学部)・赤松良久(同 大学院理工学研究科)・
神谷大介(琉球大学工学部環境建設工学科)・竹村紫苑(総合地球環境学研究所)

PE-22. 河川堤防における小動物の巣穴被害把握手法の検討:「事」

宮島泰志^{*}((株)建設技術研究所)・黒田兆次(同)・鈴木太郎(同)・安形仁宏(同)・
村瀬勝彦(国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所)・佐藤博志(同)・野中裕二(同)・
土井美智子(同)

セッションF 環境評価・モニタリング

PF-23. 東郷池における覆砂による水質・底質改善の評価～覆砂効果の検証と $\delta^{13}\text{C}$ ・ $\delta^{15}\text{N}$ による浮泥起源の把握～:「事」

赤桐さやか^{*}(応用地質(株))・伊藤正美(同)・高橋和也(OYOインターナショナル(株))・
木山真大(鳥取県中部総合事務所生活環境局)

PF-24. 河川における生物生息適地モデルの結果を用いた相補性解析の試み:「研」

前田義志^{*}(前 国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部河川環境研究室(現 国
総研河川研究部河川研究室)・中村圭吾(同)・
岩見洋一(同 (現 (独)土木研究所 ICHARM))・川口 究(いであ(株))

PF-25. 水環境の古写真を用いた情報の抽出とアーカイブ教材の開発:「研」

吉富友恭^{*}(東京学芸大学環境教育研究センター)・方 華(同 大学院)

PF-26. 植生と移動形態に着目した砂州の分類とその物理特性:「研」

原田大輔^{*}(東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・知花武佳(同)

PF-27. 宍道湖における水辺植生帯および隣接水域の環境変遷:「研」

小室 隆^{*}(東京大学大学院新領域創成科学研究科)・山室真澄(同)

PF-28. 新たな河川生態環境評価法に関する基礎的検討～中国地方の一級河川を対象として～:「研」

高村紀彰^{*}(山口大学大学院理工学研究科)・赤松良久(同)

PF-29. 生態環境多様性を用いた河川生息場評価ソフトウェアの開発:「研」

田部崇博^{*}(山口大学大学院)・関根雅彦(同)・伊藤浩文(同)・岡室直樹(同)・
神野有生(同)・山本浩一(同)

PF-30. 河川事業の影響評価等における遺伝情報の活用化に向けた研究:「研」

増本育子^{*}(中電技術コンサルタント(株))・山原康嗣(同)・
安形仁宏((株)建設技術研究所)・太田宗宏(同)・村岡敬子((独)土木研究所)

PF-31. 農業活動が宮島沼の水質の時空間変動に及ぼす影響:「研」

横山 諒^{*}(北海道大学大学院農学院)・山田浩之(北海道大学大学院農学研究院)・
木塚俊和(国立環境研究所)・海津 裕(東京大学大学院農学生命科学研究科)・
牛山克己(宮島沼水鳥・湿地センター)

セッションG 植生

PG-32. 河道内の微地形及び土壌環境条件に着目したオギ・ヨシの群落特性に関する研究:「研」

片野坂瑛一^{*}(東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・尾花まき子(同)・
知花知佳(同)

PG-33. 矢作川における要注外来生物オオカナダモ(*Egeria densa*)の繁茂状況と駆除の試み:「事」

内田朝子^{*}(豊田市矢作川研究所)・白金晶子(同)・洲崎燈子(同)・
裕 伸夫((NPO)矢作川森林塾)・椿 隆明(矢作川漁業協同組合)・角野康郎(神戸大学)

PG-34. 淀川河口域におけるヨシの生産と分解について:「研」

田中孝一^{*}(大阪府立大学工業高等専門学校)・川崎太輝(同)・大谷壮介(同)

PG-35. 矢作川におけるオオカナダモ(*Egeria densa*)の生長と形態に及ぼす光条件の影響:「事」

森原百合^{*}(日本工営(株)中央研究所)・今村史子(同)

PG-36. 濁水に含まれる無機物の堆積が付着藻類の一次生産性に及ぼす影響:「研」

宮川幸雄^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター)・森 照貴(同)・小野田幸生(同)・
加藤康充(同/ (株)建設環境研究所)・萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)

セッションH 底生動物

PH-37. 木津川における底生動物生息場としての瀬の変遷の評価:「研」

小林草平^{*}(京都大学防災研究所)・竹門康弘(同)

PH-38. 二極化発生区間および解消区間における魚類・底生動物群集の出水攪乱への反応:「研」

今田慎太郎^{*}(愛媛大学大学院理工学研究科)・三宅 洋(同)・井上幹生(同)

PH-39. 流量変動に伴う生息場所サイズの変動が河川性底生動物に及ぼす影響:「研」

山崎久美子^{*}(愛媛大学大学院理工学研究科)・三宅 洋(同)・今田慎太郎(同)

PH-40. 河口干潟における底質特性を用いた洪水後の底生生物群集の予測:「研」

大谷壮介^{*}(大阪府立大学工業高等専門学校)・
上月康則(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)・
倉田健悟(島根大学汽水域研究センター)

PH-41. 森林管理による溪流底生動物群集の変化:強度間伐と降雨流出による影響評価:「研」

渡邊祐介^{*}(東京農工大学大学院農学府)・境 優(同 農学研究院)・
布川雅典(北海道大学大学院農学研究院)・五味高志(東京農工大学大学院農学研究院)

PH-42. 日本産カゲロウ類の網羅的DNAバーコーディング:「研」

脇村 圭^{*}(大阪府立大学大学院理学系研究科)・竹門康弘(京都大学防災研究所)・
高柳 淳(慶應大学・医/慶應大学先端研GSPセンター)・
谷田一三(大阪府立大学大学院理学系研究科)・石綿進一(神奈川工科大学)・
清水信義(慶應大学先端研GSPセンター)・
加藤幹男(大阪府立大学大学院理学系研究科/大阪府立大学高等教育機構)

PH-43. 徳島県南部における通し回遊性ヌマエビ類の生息場:「事」

齋藤 稔^{*}(徳島大学大学院総合科学教育部)・米澤孝康(同)・
浜野龍夫(徳島大学大学院ソシオアーツ・アンド・サイエンス研究部)

PH-44. 農業水路群における水生無脊椎動物群集のβ多様性形成に影響する要因:「研」

大平 充^{*}(東京農工大学農学部)・千賀裕太郎(同)

セッションI 魚類

- PI-45. **荒川たんぼに生息するトミヨの保全・再生方針の検討:「研」**
宮澤康人^{*}((株)東京建設コンサルタント)・池村彰人(同)・
弘田英人(北陸地方整備局羽越河川国道事務所)・吉川 進(同)・渡邊 圭(同)・
樋口正仁(荒川たんぼ自然再生検討委員会)
- PI-46. **都市河川における天然アユ復活の取り組み～芥川1号井堰魚道におけるアユの遡上数の
傾向～:「事」**
才野紅葉^{*}(摂南大学理工学部)・田中宗繁(同)・石田裕子(同)・
花崎勝司(芥川緑地資料館)・芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク
- PI-47. **室見川における河川横断構造物の変遷と魚類ハビタットへの影響:「研」**
伊豫岡宏樹^{*}(福岡大学)・山崎惟義(同)・渡辺亮一(同)・浜田晃規(同)・
皆川朋子(熊本大学)
- PI-48. **熊本県境川におけるタナゴ亜科の生息場評価とこれに配慮した河川改修案の提案:「研」**
皆川朋子^{*}(熊本大学工学部社会環境工学科)・川野麻沙美(大分県)・
奈須朝也(熊本大学工学部社会環境工学科)・川本明慶(九州大学大学院)・
林 博徳(同)・鬼倉徳雄(同)
- PI-49. **赤川・城北ワンド群の環境変化による生息魚類の変遷:「研」**
山野上祐司^{*}(大阪工業大学大学院)・綾 史郎(大阪工業大学都市デザイン工学科)・
内藤 馨(大阪府立水生生物センター)・佐藤寛容(大阪工業大学大学院)
- PI-50. **四国における河川魚類を対象とした種の多様性の評価:「研」**
香川祥大^{*}(徳島大学大学院先端技術科学教育部)・竹川有哉(同)・
赤坂卓美(北海道大学大学院農学研究院)・
乾 隆帝(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)・
佐藤陽一(徳島県立博物館)・河口拓紀(愛媛大学大学院理工学研究科)・井上幹生(同)・
河口洋一(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)
- PI-51. **豊平川におけるPHABSIMによるシロザケの産卵環境要素の推定と適地評価:「研」**
矢野雅昭^{*}((独)土木研究所寒地土木研究所)・
渡邊康玄(北見工業大学社会環境工学科)・
矢部浩規((独)土木研究所 寒地土木研究所)・渡邊和好(同)
- PI-52. **濁りがアユの行動に与える影響～テレメトリー法を用いて～:「事」**
加藤康充^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター／(株)建設環境研究所)・
森 照貴((独)土木研究所自然共生研究センター)・
高木哲也((独)土木研究所自然共生研究センター／応用地質(株))・
小野田幸生((独)土木研究所自然共生研究センター)・
萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)
- PI-53. **土砂供給に伴う河床表層の変化が、魚類の空間利用におよぼす影響:「研」**
小野田幸生^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター)・原田守啓(同)・森 照貴(同)・
加藤康充((独)土木研究所自然共生研究センター／(株)建設環境研究所)・
高木哲也((独)土木研究所自然共生研究センター／応用地質(株))・
萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)
- PI-54. **琵琶湖流入河川におけるアユの産卵適地:「研」**
小澤元生^{*}(龍谷大学大学院理工学研究科)・遊磨正秀(同)
- PI-55. **魚類における分散と個体数-分布関係:「研」**
満尾世志人^{*}(龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科)・
角田裕志(岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター)・
小澤元生(龍谷大学理工学部)・遊磨正秀(同)
- PI-56. **石狩川上流におけるシロザケの産卵適地と探索行動ー加速度ロガーによる行動解析事例
ー:「事」**
有賀 誠^{*}(明治コンサルタント(株))・津田裕一(近畿大学水産研究所)・
山口 紘(北海道大学大学院環境科学院)・伊藤博満(水産総合研究センター)・
宮下和士(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)

PI-57. **ダムのある・なしにおけるアユの食味と藻類群集・水質との関係に関する研究:「研」**

上村嘉彦^{*}(徳島大学大学院先端技術科学教育部)・
河口洋一(同 ソシオテクノサイエンス研究部)・野崎健太郎(椋山女学園大学教育学部)

PI-58. **アユの鱗紋分析による簡便で経済的な由来分析:「事」**

池田欣子^{*}(アジア航測(株))・山賀由貴(同)・西井一浩(同)・
竹門康弘(京都大学防災研究所)・
濱田 博(国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所)

PI-59. **中国の中小河川における魚類多様性保全に向けたハビタット―河道特性パラメータの関係性に関する研究:「研」**

佐藤辰郎^{*}(九州大学工学研究院)・鹿野雄一(同)・山下奉海(同)・島谷幸宏(同)・
李 建華(同済大学環境科学与工程学院)

PI-60. **半島マレーシアにおける外来魚の分布状況と土地利用の関係について:「研」**

山下奉海^{*}(九州大学工学研究院)・鹿野雄一(同)・島谷幸宏(同)

セッションJ 昆虫・鳥類

PJ-61. **”ホタルの舞い飛ぶキャンパスづくり”の今後に向けて:「研」**

松木 越^{*}(東洋大学大学院工学研究科環境・デザイン専攻)・
福井吉孝(同 理工学部都市環境デザイン学科)・青木宗之(同)

PJ-62. **能登半島におけるイカリモンハンミョウの減少と海浜地形変化:「研」**

市川広幸^{*}((公財)日本生態系協会)・宮川泰平(石川県立大学大学院)・
柳井清治(石川県立大学)・上田哲行(同)

PJ-63. **羽毛微量元素分析を用いた草原棲希少小型鳥類の繁殖地判別:「研」**

坂 有希子^{*}(弘前大学大学院農生)・蛭名純一((NPO)おおせっからんど)・
作山宗樹(ネクサス(株))・三上かつら(バードリサーチ)・渡邊 泉(東京農工大学農)・
東 信行(弘前大学大学院農生)

セッションK 住民との協働

PK-64. **環境教育の場に求められる河川空間とその活用意義:「研」**

藤井佑香^{*}(東京学芸大学大学院)・吉富友恭(同 環境教育研究センター)

PK-65. **国内展示施設における生物多様性展示の現状:「研」**

渡辺友美^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター)・吉富友恭(東京学芸大学)・
萱場祐一((独)土木研究所自然共生研究センター)

PK-66. **住民参加型の都市河川再生に向けた環境教育アプローチ～マレーシア・ウェイ川におけるWATER Projectの調査事例～:「事」**

和田 彰^{*}((株)建設技術研究所国土文化研究所)・
田井さゆみ(東京学芸大学教育学部)・
吉富友恭(東京学芸大学環境教育研究センター)

PK-67. **輪中地域における水郷景観の再生に向けての展望 ― 堀田は再生できるか:「事」**

小林卓司^{*}((株)修成建設コンサルタント)・南野龍平(同)

PK-68. **コウノトリ育む農法と慣行農法による水田の水生生物群集構造の差異:「研」**

佐川志朗^{*}(兵庫県立大学／兵庫県立コウノトリの郷公園)・宮西 萌(近畿大学)・
奥村大輝(同)・細谷和海(同)・内藤和明(兵庫県立大学／兵庫県立コウノトリの郷公園)・
江崎保男(同)

PK-69. **福井県越前市におけるコウノトリが飛来した水田の生物相について:「事」**

日和佳政^{*}(越前市産業環境部農林振興課)・藤長祐平(同)・
村田薬師((株)環境アセスメントセンター敦賀事務所)・関岡裕明(同)

PK-70. **ダム直下河口域における住民協働による長期モニタリングの試み～沖縄本島億首川のマングローブ林を対象として～:「研」**

竹村紫苑^{*}(総合地球環境学研究所)・高里尚正(ふくらしやや自然体験塾)・
乾 隆帝(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)・鎌田磨人(同)・
赤松良久(山口大学大学院理工学研究科)

3 次期役員募集・推薦委員会報告

次期役員募集・推薦委員会

委員長：近藤 徹 会長

委 員：廣瀬 利雄 元会長

山岸 哲 前会長

本年度は役員改選年であり、6 月 1 日より 6 月 30 日の期間で、次期役員の募集を行いました。この結果、募集期間内に、会長 1 名、副会長 3 名、理事 15 名、監事 2 名の計 21 名の他薦申込みがありました。これを受け、第 2 回次期役員募集・推薦委員会を 7 月 1 日に開催し、計 21 名の役員候補を推薦しましたのでご報告します。

+++++

[次期会長候補：1 名] (敬称略)

谷田 一三 (新任) 大阪府立大学名誉教授

[次期副会長候補：3 名] (50 音順、敬称略)

中村 太士 (再任) 北海道大学大学院教授

島谷 幸宏 (新任) 九州大学大学院教授

虫明 功臣 (新任) 東京大学名誉教授

[次期理事候補：15 名] (50 音順、敬称略)

浅枝 隆 (再任) 埼玉大学大学院教授

河崎 和明 (再任) 公益財団法人河川財団参事

久保田 勝 (再任) 東北電力顧問

藤原 宣夫 (再任) 大阪府立大学大学院教授

成田 賢 (新任) 応用地質株式会社取締役社長

甲村 謙友 (新任) 独立行政法人水資源機構理事長

関 克己 (新任) 京都大学客員教授

角 哲也 (新任) 京都大学防災研究所教授

島崎 由美 (新任) いであ株式会社内部統制本部長

清水 義彦 (新任) 群馬大学教授

関島 恒夫 (新任) 新潟大学大学院准教授

高村 典子 (新任) 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター センター長

風呂田 利夫 (新任) 東邦大学名誉教授

渡辺 綱男 (新任) 一般財団法人自然環境研究センター 上級研究員

渡邊 康玄 (新任) 北見工業大学教授

[次期監事候補：2 名]

廣澤 遵 (再任) 株式会社建設技術研究所東京本社副本社長 執行役員

西 浩司 (新任) いであ株式会社国土環境研究所生物多様性計画部 部長

4 行事案内

4-1 応用生態工学会 第5回フィールドシンポジウム in 北海道

応用生態工学札幌セミナー「本来の川を取り戻すために…その8」

テーマ：「水・土・緑（生物）をレジームとしてとらえる」

趣 旨： 「アンシャンレジーム（歴史）」、「戦後レジーム（政治）」、「レジームシフト（科学）」等々…どこかで『レジーム』という言葉聞いたことがあると思います。

本シンポジウムは、『レジーム（体制、仕組み、基本構造）』という大局的な見方で、砂礫河川のメカニズムの一端について講演と現場を通じて考える機会です。

土地利用や上流に造られたダムは、河道やその周辺の水・土砂・緑（生物）に少なからず影響を与えています。相互に関連しながら時間をかけて、その影響に回答しながら適応しつつ、現在の河川環境が形成されています。今は、知らぬ間に『レジーム』が変わったのか、もしくは、変わりつつあるのかもしれません。

応用生態工学会では、現場のニーズに応じた研究テーマの発掘等を目的に、全国大会とは別に各地で“フィールドシンポジウム”を開催しています。今回（5回目）は、十勝川水系札内川で行われている“かわら”再生の現場を視察します。川の要素である水と土砂と緑（生物）のトータルをレジームとしてとらえ、土砂水理学や河川生態学及び河川管理の目で分析していきます。

日 時：2013（H25）年8月26日（月） シンポジウム 11：00～17：30

27日（火） フィールドツアー 8：00～17：00

場 所：シンポジウム 札幌エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目[札幌駅北口徒歩3分]）

フィールドツアー 十勝川水系札内川（帯広市、中札内村[札内ダムから下流域]）

主 催：応用生態工学会札幌

共 催：（独法）土木研究所 寒地土木研究所

協 力：国土交通省北海道開発局帯広開発建設部

☆シンポジウムプログラム

8/26（月） 札幌市（札幌エルプラザホール）

11：00～12：00 基調講演「次世代に語り継ぎたいこと」

石城謙吉さん（北大名誉教授、前知床世界遺産会議委員長）

13：00～17：30

①趣旨説明「水と土砂と緑（生物）をレジームとしてとらえる」

中村太士代表（北海道大学大学院農学研究院 教授）

②講演「河床形態、河道形状のレジーム論」

泉典洋さん（北海道大学大学院工学研究院 教授）

③講演「流域地質構造が供給土砂を介して河川景観、水生生物に及ぼす影響」

田代喬さん（名古屋大学大学院環境学研究科 准教授）

④講演「これらの砂防がめざすもの」

南哲行さん（北海道大学農学研究院 特任教授、元国土交通省砂防部長）

⑤講演「生息場環境の時空間変異と生物応答」

根岸淳二郎副代表（北海道大学地球環境科学院 准教授）

⑥研究紹介「札内川における水生生物の生息環境改善について」

永多朋紀さん（土木研究所寒地土木研究所寒地河川チーム）

18:00～ 懇親会

☆フィールドツアー

8/27(火) 帯広市・中札内村（十勝川水系札内川）

08:00 JR 札幌駅集合-出発※1

08:00～11:00 札幌～JR 帯広駅（バス移動）（道中の地形セミナー）

「道中の地形セミナー」：池田宏（元筑波大陸域環境センター）

11:00～17:00 十勝川水系札内川 現地視察（札内川ダム～十勝川合流点付近）

解説：北海道開発局帯広建設部／現地付近で調査中の若手研究者／

シンポジウム講師（泉・根岸・中村）

17:00 JR 帯広駅解散（JR 札幌駅までバス送迎有）※2

※ 1 帯広からの参加希望者は集合場所をお問い合わせください。

※ 2 札幌までのバスがでます。

☆定 員 シンポジウム 150 名／フィールドツアー40 名（バス 1 台）

☆参加費 シンポジウム 2,000 円（学生無料）／フィールドツアー 3,000 円／
懇親会 4,500 円

☆申込先 北海道大学大学院農学研究院森林管理保全学分野 森林生態管理学研究室（中村研究室 近藤）
sapporo.nakamuraken@gmail.com

送信タイトル【応用生態札幌セミナー参加申込】

メールには以下の内容を記入してください。

- 1、氏名、フリガナ、性別
- 2、所属先
- 3、連絡先（所属・自宅の別を明記の上、郵便番号、住所、電話、メール）
- 4、参加申し込み事項（シンポジウム、フィールドツアー、懇親会）
- 5、合計参加料
- 6、申し入れ事項

4-2 第 12 回北信越現地ワークショップ in 福井

「越前・若狭の里山とその保全・再生 ―コウノトリを視軸として―」

応用生態工学会福井

森田 弘樹 (株式会社サンワコン)

11 月に開催を予定しております、第 12 回北信越現地ワークショップについてご案内します。福井県では現在、里山の保全・再生に向けた様々な取り組みが始められており、嶺北地方（越前）の越前市ではコウノトリをシンボルとした自然となりわい、地域の再生を目指した取り組みが進められています。また九頭竜川や日野川などの河川や嶺南地方（若狭）の三方五湖でも、様々な主体の参画の下、自然再生の取り組みが広がっています。そこで福井県では 2 回目の開催となる今回の現地ワークショップでは、福井県（越前・若狭）の農地や河川を含めた里山の現状と課題、その保全と再生について考えることとしました。

ワークショップでは、里山の自然再生に関わっておられる様々な立場の方々にご講演をいただき、豊かな里山環境のシンボルであるコウノトリを切り口として、越前・若狭の里山で起きている様々な問題と、その解決に向けた取り組みについて考えます。また講演と合わせて、現地見学会も実施します。越前市のコウノトリ飼育施設や、日野川水系で実施されている自然再生の現場を巡る見学コースを企画しています。ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

1) 開催概要

(1) 日程

- ・ワークショップ : 平成 25 年 11 月 8 日 (金) 10:30～17:00
- ・ポスターセッション : 同上 12:20～13:30
- ・交流会 : 同上 18:00～20:00
- ・現地見学会 : 平成 25 年 11 月 9 日 (土) 9:00～16:00

(2) 会場

- ・ワークショップ : 『南条文化会館 大ホール』(福井県南条郡南越前町牧谷 29-15-1)。
JR 北陸線南条駅より徒歩 8 分。
北陸自動車道南条 SA スマート IC (ETC 車両のみ 6:00～22:00 利用可) より 3 分。
- ・交流会 : 仕出し割烹料理 『関亭』(福井県南条郡南越前町上野 20-52)。
ワークショップ会場よりバス送迎。
- ・現地見学会 : JR 武生駅および南条文化会館発着。

(3) 主催等 (予定)

- ・主催 : 応用生態工学会
- ・共催 : (公財) 福井県建設技術公社
- ・協賛 : 北陸技術士懇談会, 北陸技術士懇談会福井支部, (一社) 福井県測量設計業協会,
福井県農業土木技術研究会
- ・後援 : 国土交通省近畿地方整備局, 農林水産省北陸農政局, 環境省中部地方環境事務所, 福井県, 福井市, 鯖江市, 越前市, 南越前町, (公財) リバーフロント研究所, (一社) 福井県建設業協会, 福井県コンクリート製品協会, 日本ビオトープ管理士会福井県支部, 福井県両生爬虫類研究会, 福井新聞社

2) プログラム等

(1) ワークショップ

- ・基調講演 A 「コウノトリから見た里山の生物多様性の課題とその保全」
兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授 江崎 保男
- ・事例報告 A1 「鳥羽谷におけるコウノトリ「えっちゃん」の行動～どんな環境に惹かれてくるのか～」 福井県海浜
自然センター 次長・日本野鳥の会福井県 松村 俊幸
若狭町鳥羽小学校 校長・ハスプロジェクト推進協議会 高橋 繁応
- ・事例報告 A2 「越前市におけるコウノトリが舞う里づくりの取り組み」
越前市産業環境部 里地里山保全再生推進員 日和 佳政
- ・事例報告 A3 「三方五湖における自然再生」
福井県安全環境部自然環境課 主任 西垣 正男
- ・ポスターセッション
- ・基調講演 B 「河川の生物多様性の課題とその保全」
京都大学防災研究所 准教授 竹門 康弘
- ・研究報告 B 「魚類個体群保全のための農地の水域ネットワークの再生」
農村工学研究所 主任研究員 竹村 武士
- ・事例報告 B1 「日野川における魚道群の整備」
福井県丹南土木事務所地域整備課 課長 高野 政志
- ・事例報告 B2 「九頭竜川水系の流域環境保全に関する連携」
国土交通省福井河川国道事務所 所長 青野 正志
- ・総合討論
コーディネーター 東京大学 名誉教授 玉井 信行

(2) 現地見学会

日野川魚道群, 吉野瀬川ダム事業関連ビオトープ, 越前市エコビレッジ交流センター, コウノトリ飼育施設. (見学先, 見学順序は変更となる可能性があります.)

3) 参加申込等

(1) 参加料

- ・ワークショップ: 一般 1,500 円, 学生 500 円 (昼食場所は少ないです. 別途 700 円でお弁当の用意ができます.
参加申込と同時に申し込みください.)
- ・交流会 : 5,000 円 (当日お支払いください)
- ・現地見学会: 一般 2,700 円, 学生 1,200 円 (昼食代 700 円を含みます)

(2) 参加申込方法

参加申込書に必要事項をご記入の上, FAX してください. 同等内容の E-mail でも受付いたします. 参加申込書は応用生態工学会のホームページからダウンロードできます.

(3) 参加申込・問合先

福井工業高等専門学校 田安正茂

(TEL&FAX : 0778-62-8300, E-mail : tayasu@fukui-nct.ac.jp)

(4) 申込締切

参加 申込締切 : 平成 25 年 10 月 25 日 (金)

参加料振込締切 : 平成 25 年 11 月 1 日 (金)

(5) 参加料振込先

【ゆうちょ銀行】 口座名称 : 応用生態工学会福井 口座番号 : 00790-1-100369

(6) 宿泊施設について

ワークショップ会場付近には宿泊施設が少ないため、宿泊される方は、下記の宿泊施設をお勧めします。

宿泊施設 : 花はす温泉 そまやま (南条郡南越前町中小屋 60-1 ; 0778-47-3368)

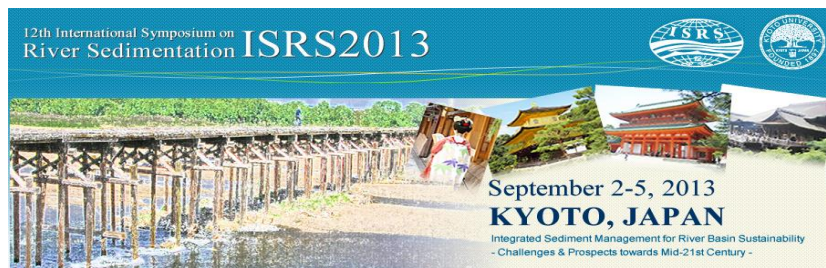
宿泊プラン : GOGOプラン (朝食付き) HP を参照 ; 個室は少ないです。

申し込み : 応用生態工学会福井で 30 名の事前予約をしてあります。

移 動 : 懇親会場から翌日の南条文化会館へは、バスにより送迎します。

その他の宿泊施設 : 越前市内にホテルがあります。

4-3 「The 12th International Symposium on River Sedimentation (ISRS2013)」のご案内



「The 12th International Symposium on River Sedimentation (ISRS2013)」のご案内

主催 : LOC of the 12th International Symposium on River Sedimentation

共催 : WASER (World Association for Sedimentation and Erosion Research) 他

後援 : UNESCO, IAHR, 京都大学, 京都大学防災研究所, 土木学会, 日本自然災害学会, ダム工学会, 砂防学会, 応用生態工学会, 日本河川協会, 河川財団, 京都府

開催主旨 : 河川等における土砂堆積および侵食に係る問題の解決を図るため、研究者が世界各国から一堂に会し、最新の研究成果を発表し、意見交換等を行うことを目的とする。

日程：2013 年 9 月 2 日（月）－5 日（木）

会場：京都テルサ (<http://www.kyoto-terrsa.or.jp/>)

学会 HP：<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/~ISRS2013/default.html>

参加案内：現在のプログラムはキーノート 2 件（高橋 保 京都大学名誉教授, Yitian LI 武漢大学教授），口頭発表 203 件，ポスター発表 71 件の合計 276 件です．

（プログラム詳細）http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/~ISRS2013/TentativeProgram_v2.pdf

論文受付は終了していますが，一般参加者を現在募集しています．また，9 月 3 日（火）には，河川の土砂問題の現状と今後の取り組みについて各国際学協会の代表による公開ワークショップ（下記，参加無料）を開催します．皆様のご参加をお待ちしております．

参加登録：

一般参加者（有料）：学会 HP から申込みください（オンライン登録受付締切：8 月 9 日）．以降は，「一般参加希望」と明記して，所属，氏名，連絡先（メール）を isrs2013@uh31.dpri.kyoto-u.ac.jp に送付し，登録料を当日受付でお支払いください．

WISA のみ参加者（無料）：「WISA のみ参加希望」と明記して，所属，氏名，連絡先（メール）を isrs2013@uh31.dpri.kyoto-u.ac.jp にお送りください．

Workshop on International Sediment Advancements (WISA)，2013 年 9 月 3 日（火）

09:00-10:00 各国際学協会からの報告

世界土砂会議（WASER），Giampaolo Di Silvio (Universita di Padova, Italy)

国際水圏環境工学会（IAHR），Rollin H. Hotchkiss (Brigham Young University, USA)

国際水文科学会（IAHS），Mike Stone (University of Waterloo, Canada)

日本からの話題提供，Hajime Nakagawa (Kyoto University, Japan)

10:30-10:45 土砂研究に関する国際協力

国際土砂イニシアティブ（ISI, UNESCO），Manfred Spreafico (University of Berne)

10:45-12:30 パネルディスカッション（ダムの影響と土砂管理）

持続可能なダムと投資，Rollin H. Hotchkiss (IAHR)

ダム堆砂と水供給，Mike Stone (IAHS)

大規模洪水とダム堆砂，Hajime Nakagawa (LOC)

貯水池における土砂の分級と土砂管理，Giampaolo Di Silvio (WASER)

ダムによる河川地形に対する影響，Gerrit Basson (ICOLD)

4-4 第3回 遠賀川中島自然再生研究会の報告

応用生態工学会 福岡
酒井 奈美 (西日本技術開発株)

応用生態工学会福岡の取り組みとして、ニュースレターNo. 60 でお知らせした遠賀川中島自然再生研究会を開催いたしましたのでご報告いたします。

<遠賀川中島について>

中島は、九州北部、一級河川遠賀川の下流に位置する中州で、国土交通省による遠賀川中島自然再生事業の対象地です。自然再生事業では、遠賀川の流域や河川で失われた湿地を創出し、多様な生物が生息する河川環境を再生することを目的に、掘削による湿地の再生やヨシ原の保全などを行い、次世代に引き継ぐ未来の遠賀川の川づくりが行われています。

<遠賀川中島自然再生研究会の概要>

応用生態工学会福岡では、平成 23 年度から「遠賀川中島自然再生研究会」を立ち上げ、国土交通省遠賀川河川事務所より中島を研究フィールドとして提供頂き、学会員を中心とする研究会メンバーにより、応用生態工学的な研究を進めています。

本研究会は、異分野の研究者同士の交流が促進されることに加え、得られた成果を行政や市民の方にも知ってもらうことで、地域の自然環境の改善や学会の普及に繋げることを主な目的としています。

遠賀川中島自然再生研究会 役員 (敬称略)

会長：島谷 幸宏 (九州大学) 副会長：荒井 秋晴 (九州歯科大学)

顧問：小野 勇一 (北九州市顧問) 事務局：応用生態工学会福岡

会員の主な所属：大学・研究機関・国土交通省・市民団体・コンサルタント (これまでの参加者：約80名)

主な研究分野：魚類・二枚貝・植物・水生昆虫・哺乳類

<第3回研究会内容>

日時：平成 25 年 6 月 14 日 (金) 14:00~17:15 場所：遠賀川水辺館 参加者：28 名

概要：これまでの研究成果として、研究者からは魚類・二枚貝・植物・水生昆虫などの状況と湿地環境との関わりについて発表されたほか、行政からは事業・モニタリングの成果報告、市民団体からは自然再生協議会としての活動報告が行われました。また、中島の湿地の再生状況や今後の課題、研究会と市民団体との交流などについて活発な議論が交わされました。

<今後の予定>

今回の研究会では、会員から湿地環境の改良方法について提案があり、湿地環境をより多様にするための改良が予定されています。また、研究会は概ね年1回程度の頻度で開催する予定です。なお、今後のご案内は学会メーリングリストで行います。

遠賀川中島自然再生研究会では、どなたでも参加できる会です。研究会の聴講、研究の参加ともに、お待ちしております。研究の参加については、既に現地で研究をされている方との調整が必要となる場合もありますので、ご了承ください。

【問い合わせ先】 応用生態工学会福岡 酒井 (n-sakai@wjec.co.jp)



第3回研究会の様子



湿地改良のための現地視察の様子

5 理事会、幹事会報告

5-1 第 55 回幹事会報告

日時：2013 年 5 月 21 日（火） 10:00～1200

場所：応用生態工学会事務所（麴町）

1, 第 64 回理事会報告、それを受けての要検討事項

藤田幹事長から、第 64 回理事会からの幹事会への指示事項などの要点の報告があった。

2, 海外学会派遣研究者・技術者の選定結果の報告

五味幹事より、2013 年度海外学会派遣研究者・技術者の選定結果の報告がなされた。

・これに関して、五味幹事他から

- ① これまでは助成金の実績報告がされていなかった、今後制度の改善するにしても情報が蓄積しないのでは善し悪しが分からない、実績報告の義務づけを考えたい。
- ② 学会参加準備の都合も考慮し、選定された研究者への連絡の迅速化が必要なので、理事会にお願いしてメール会議での承認を得る方向に動くこと。（理事会承認事項）

3, 第 9 期 次期役員募集・推薦委員会の動き

・推薦委員会の進行状況を事務局から説明、役員候補推薦公募作業を 5 月末までに進めている状況を説明。

4, 大阪大会準備状況

・大阪大会のすでに設定済みのセッションと、東日本大震災復興に関する課題をどの様にすり合わせるかが課題と認識する、大阪大会実行委員会も認識は一致している。

・国際交流委員会では、流域における放射能と生物の関係の調査実態をテーマにした国際シンポジウムを検討中である、開催場所は、東京、大阪大会が考えられるがまだ計画は固まっていない。今後大阪大会とのすり合わせとも考慮して、具体案を考える。

5, 幹事会の運営方法の変更

・藤田幹事長から、理事・幹事の担当を明確にすることにより、①学会活動の活性化、効率化を図る、②学会活動へのより強い関与と関心を引き出す、③事務局の負担軽減を図る目的整理を行い、実行具体案として担当班（案）編成を構築する叩き台が示された。

・これに先立ち、萱場副幹事長から 上記理事・幹事担当班制を考えた背景整理図

の説明があった。(資料省略)

- ・各班でこれを検討し、理事会に何らかの形にまとめて、理事会資料とする。

6, 全国大会での賞の性格・あり方、学会として運営への関わり方

- ・他学会と応用生態工学会大会表彰事例、目的設定等を調査のうえ、三宅幹事案が提示された。
- ・いくつかのディスカッションがあり、幹事会としての合意がなされたので、その整理を三宅幹事が行い、理事会に「応用生態工学会表彰規程」(仮題)として提案する。

7, ICLEE 運営問題

- ・藤田幹事長から、ICLEE 問題の背景説明があった。この問題を当初からご尽力されている中村太士先生が理事会で説明する理事会議題を予定する。

8, 事務局新体制移行後の状況報告と要検討事項

- ・決算速報 事務局から 2012 年度決算の速報値の説明があった。予算との乖離 -4,286,011 円の発生理由としては
年度内に収入経理する予定であった約 200 万円の会費の自動振込事務作業が数日遅延し、2013 年度収入に整理したこと、会費収入が予定を下回ったこと、特別会計支出の増額があったことを説明した。
- ・勤務状況が変化したが、現在の所大きな問題が無く進行している状況を説明した。

5-2 第 65 回理事会報告

日時：2013 年 6 月 5 日(水) 13:30~15:30

場所：ダム水源地環境整備センター会議室

以下の 4 項目を審議した。

【審議事項- 1】海外学会等への派遣者募集要領の改訂(案)

海外学会等への派遣者募集要領について、これまで国際交流委員会で選考し、「理事会」で決定する仕組みで運営されている。しかしこの方法では、派遣者への派遣決定の告知やニュースレターへの報告などが、国際交流委員会の審議から 1 カ月半後と遅くなる傾向があった。今後、派遣の決定や実施の迅速化のために、国際交流委員会でこれを決定することとし、幹事会と理事会については、この決定経過を報告する変更案の審議を行った。

また、例年派遣者からの助成金の決算報告が義務づけられていないことで、派遣費用が適切に使用され、また派遣先によっては、どの程度の不足額を自己資金で補足したのかについても十分な情報が得られず、今後の派遣事業の継続および額の適切性を判断するためには、これらの情報が重要と考え、募集要項に、決算報告書の提出を義務つける文言を加えることとしたい提案であった。

改訂案についての多岐な意見があったが、理事会としては 選考の考え方を示した報告がなされることを前提として、国際交流委員会で派遣者を選考、決定し、理事会では報告事項とする変更案を承認した。

【審議事項- 2】ICLEE の運営問題への対処

現在の赤字運営状態に加えて、海外学会の離脱もあり、このままでは次号以降の発刊が危ぶまれる状態を解消する方策を審議した。

- ・これの対応に当たられている中村太士副会長から、連携していた KITLA(韓国)が脱会、KSEE は脱会予定(2013 年)で、

この状況では赤字となり英文誌の発行が困難になることを具体的に説明し、発行を維持するため、特に緊急的措置と短期的処置についての理事会での了承を要請した。

● 緊急的措置

ELR の残金を ICLEE に回してもらうように 3 学会で働きかける。

→これによって、2014 年 1 号までは、赤字による発刊停止を回避できるはず。

● 短期的措置

非会員への掲載料の徴収 → 次号から実施。

会員外はページチャージ 1 万円を徴収する。

発刊前でアクセプトされている案件については遡及する。

→これによって、100 万～150 万円の収入を得る。赤字からの完全脱却が可能。

● 中期的措置

ページ上限の検討、ページ超過料金の徴収（会員も）の検討。

他学会への ICLEE への加入の働きかけ（加盟の資格的条件は特に制限しない）。

個人会員を募集する。JECONE 等を利用して個人会員（9000 円）を勧誘する。

● 長期的措置

組織、運営の強化

① 特集号を作るための大会の定期開催

② 査読方針の見直しの検討（編集委員会で議論してもらう）

③ 編集方針の見直しの検討 → 2014 年には実施できるよう 2013 年度内に準備

④ 韓国との関係、相互理解を深める。

⑤ 日本 3 学会の事務会議を機能させる。

国内事務体制（組織）の再構築 → ML 等で、常に情報共有できるようにする。

年 1 回は幹事会（ICLEE 担当者）が集まる。

・理事会は、状況を理解し、緊急的処置、短期的処置について了承し、中、長期的処置については関係学会との調整を待つことを決定した。

【審議事項- 3】応用生態工学会 理事—幹事の担当性への移行について

藤田幹事長から、学会運営課題解決の迅速化、効率化と、会の活性化などを図る方策として、理事—幹事の班編制を構築する担当性への移行案が提案された。

■目的

理事—幹事の担当を明確にすることにより

・学会活動の活性化・効率化を図る。

・上記により学会活動へのより強い関与と関心を引き出す。

・事務局の負担軽減を図る。

■担当班（案）について

①財政・組織運営班

賛助会員てこ入れ、一般・学生会員増てこ入れを行うとともに資金増案出・実行、法人化の検討を行う。

②学術成果総括活動班

応用生態工学で得られた知見を整理し、会員向けに提供する。

③研究活動奨励班

学会の研究のあり方を整理し、学会誌の方向性、賞のあり方や具体的内容を検討する。

④技術援助活動班

応用生態工学の知見を現場に導入することを目的に、その仕組み等を整備。

⑤広報班

学会のプレゼンス強化、会員サービス向上を目的として情報発信の方法等を検討（含む：HP 管理、ニュースレターのあり方改善）。

⑥全国活動運営班

応用生態工学会の活動を全国に展開する上での戦略と具体的な内容を検討する（含；全国大会運営の基本方針、地域研究会のあり方、実勢分析）。

⑦ICLEE 対応班

⑧特命班

学会で解決すべき課題をアドホックベースで取り組む。短期間で解決

ひとまず、東日本大震災対応を含む大規模災害からの復旧と環境保全・復元

→大阪大会につなげる

■当面の進め方のイメージ

・各班は、幹事会資料等の作成を行い、幹事会に持ち寄り議論。その結果を事務局長のサポート+追加（事務局案件）を経て、理事会資料とする。

・②はテキスト刊行委員会と、③は会誌編集委員会と、④は技術援助委員会と、⑤は情報サービス委員会と、⑥は普及連携委員会、国際交流委員会、各年の全国大会実行委員会と連携、⑦は国際交流委員会および③と連携

■審議の結果、理事会では基本的方向を了承した上で、早急に班編制を構築するため、各理事と幹事は、それぞれ得意分野でのリーダーシップを発揮し、幹事長と調整連絡しながら班編制を構築し、まずは動き出すことを要請した。

【審議事項- 4】応用生態工学会 幹事会・特別班（大震災対応）の提案

藤田幹事長から、学会として取り組むべき最重要課題であるとの基本認識のもと、応用生態工学会として、急ぎかつ的確に対応するため、審議事項-3 の理事-幹事の担当性 を活用し、「応用生態工学会 幹事会・特別班（大震災対応）」を構築し、今後長期的な視野で取り組むべきこの課題を、まずは以下の取り組みを開始することの了承を得たいとの提案があった。

理事会では、まずはこの時期での大阪大会での発表者の見込みについての意見交換があり、発表者の申し込み状況（6 月 1 日～30 日）も見ながら、学会員内（外）からの発表者について、発表者と内容の見込みをはやめに見極めること、大阪大会のプログラムとの調整を緊密化すること、費用経費についても調整することなどを折り込み、提案を了承した。

特に今回学会側が発表を希望する課題については、必ずしも学会員である可能性は低いので、発表は学会員に限るとしたルールを前提にしながらも、所期の研究成果の発掘を成功させるよう、経費の確保方策を含めて、弾力的運用を図ることが必要と認識された。

【審議事項- 5】研究発表会の 賞 について

- ・1 月 16 日第 54 回幹事会で具体的に問題提起がなされ、55 回幹事会でこれまで明文化されていなかった 賞 を明文化、制度化するための「優秀発表賞（案）」を審議した。

- ・理事会では、受賞数について意見交換があったが、提案内容を了承し、大阪大会から適用することに決した。なお、この件については、議論があった受賞対象数について修文し、8 月 23 日の理事会での報告に先立ち、メールを持って報告し、大阪大会から適用することとなった。

応用生態工学会優秀発表賞表彰規定（案）

1. 目的

研究発表会における発表の質の向上と、さまざまな活動内容と立場の会員の学会参加・発表に対する意欲向上を目的とする。

2. 賞の種類

応用生態工学会研究発表会における秀でた口頭発表およびポスター発表に以下の優秀発表賞を授与する。なお、研究発表賞は基礎的・応用的研究に関する発表を、事例発表賞は実践的活動に関する発表を対象とする。

- ・優秀口頭研究発表賞 (若干名, 対象:「研究」区分で応募した口頭発表)
- ・優秀口頭事例発表賞 (若干名, 対象:「事例」区分で応募した口頭発表)
- ・優秀ポスター研究発表賞 (若干名, 対象:「研究」区分で応募したポスター発表)
- ・優秀ポスター事例発表賞 (若干名, 対象:「事例」区分で応募したポスター発表)

口頭／ポスターおよび研究／事例の別は申込時に自己申請する。上記のうち、最も秀でた口頭発表およびポスター発表に以下の最優秀発表賞を授与する（研究、事例の別を問わない）。

- ・最優秀口頭発表賞 (1 名, 対象: 口頭発表)
- ・最優秀ポスター発表賞 (1 名, 対象: ポスター発表)

3. 対象者

以下のうち、申込時に審査対象になることを希望した発表の登壇者を審査の対象とする。

- 1) 若手研究者（学部学生、大学院生、ポスドク等の若手会員）
- 2) 現場技術者または行政担当者

1), 2) とともに研究発表賞もしくは事例発表賞に応募できる。過去に最優秀発表賞の受賞歴のある者は応募できない（研究、事例の別を問わない）。申込時から登壇者が変更された場合は審査対象から除外する。

4. 審査基準

下記の 5 審査項目について各 5 点満点で採点する（計 25 点満点）。

- 1) 応用生態工学的な論点の明確さ（応用生態工学的な位置づけが妥当か？）
- 2) 論理の明確さ（発表全体を通して論旨が明瞭か？）
- 3) 学術的な独創性（着眼点や、結果、結論に独創性があるか？）
- 4) 発表のわかりやすさ（発表資料および説明の質は高いか？）
- 5) 今後の自らの取り組みの参考になったか（応用生態工学の発展に寄与するか？）

5. 実施

- ・大会実行委員会および数名の担当幹事により優秀発表賞審査委員会を組織する。
- ・幹事会が作成するマニュアルに沿って優秀発表賞審査委員会が賞を運営する。
- ・担当幹事が審査員を選出、依頼する。
- ・審査対象となる発表の共同研究者ならびに関係者は当該発表の審査員に就任できない。
- ・審査員数は概ね以下の通りとする。

口頭：3 審査員／会場

ポスター：3 審査員／10-15 件

- ・審査結果に基づき優秀発表賞審査委員会が受賞者を選考する。審査員により採点傾向が大きく異なる場合は平均偏差値等の指標を用いる。

6. 授与・公表

- ・公開シンポジウム冒頭の表彰式にて学会長が賞（学会長名義）を授与する。
- ・受賞者リストおよび受賞ポスターを開催期間にわたり掲示する。
- ・受賞者リストおよび講評をニュースレターに掲載する。

報告事項は以下の 7 項目であった。

- 【報告事項- 1 】 第 55 回幹事会報告
- 【報告事項- 2 】 大阪大会の準備状況
- 【報告事項- 3 】 第 9 期 次期役員募集・推薦委員会の動き
- 【報告事項- 4 】 2013 年度 海外学会派遣研究者・技術者の審査結果
- 【報告事項- 5 】 テキスト刊行委員会
- 【報告事項- 6 】 会誌編集委員会
- 【報告事項- 7 】 2, 012 年度決算（概要）

6 委員会報告

6-1 会誌編集委員会報告

編集委員長 森誠一

平成 25 年度第 1 回会誌編集委員会は、2013 年 5 月 21 日 16 : 00 ~ 18 : 00 に応用生態工学会事務局で開催した。出席者は森委員長、風呂田委員、鎌田委員、小出水委員、西委員、大野委員、角委員の 7 名で、その議題内容は以下のとおりである。

1. 前回(2012. 9)議事録の確認(報告)
2. 会誌発行状況、編集作業の進捗状況(報告・意見交換)
3. 「レポート」投稿実現策について(意見交換)
4. その他(意見交換)
 - 1) 次の特集企画・時期等
 - 2) 次期の編集委員会体制等

議事内容

1. 前回(2012. 9)議事録の確認(報告)
 - 1) 担当編集委員から査読の依頼に対する回答および依頼取り止めの判断の遅延が、査読全体の遅延に繋がっているケースが多い。
 - 2) 編集作業の迅速化のため、担当編集委員にはシステム上にある専門分野欄の記入を求めたい。また、今後の査読者選定ができるだけスムーズに進むように、査読者を承諾いただいた方にも専門分野に記入をお願いする必要がある。編集委員会担当委員(西)より、専門分野記入の依頼を行う方向で検討する。編集委員の実態を把握することで、例えば不足専門分野の補強につながり、編集体制の強化を諮ることになる。
2. 会誌発行状況、編集作業の進捗状況(報告・意見交換)
 - 1) 中国からの投稿がまた最近あり、内容が応用生態工学会の趣旨に合わないもの、非会員であるものがあつたので、委員長判断で断り理由や相応しい投稿先(具体の学会名は記していない)を示唆して返却したものがある。
 - 2) 査読依頼した予定者の非回答による依頼取り止めの期限を原則 2 週間とし、それ以後は新規に査読依頼する。〈持ち回り審議事項〉
 - 3) 最近、査読・採否決定に掛かる日数は全体的に改善されてきたが、2、3 の遅延原稿がある。担当編集委員にリマインダー督促依頼を送付している。
 - 4) 査読結果の遅延についてのリマインダーメールが、一部の担当編集委員に届いていないようである。現在、査読の自動リマインダーメールは、査読者のみに送信されるようになっている。この設定を変え、担当編集委員にも同時に自動的に送付する方法はない。査読者に手動でリマインダーメールを送信する際に、担当編集委員を cc に入れることは可能なので、編集事務局で対応することが必要である。
 - 5) 投稿数は、ここ 3 年ほどやや増加傾向にある。23 年度の受理数と不採択数は、それぞれ前期=14 : 8、後期=17 : 7 であつた(24 年度は作業中もあるため未確定)。一定のレベルを保持していると判断している。
 - 6) 引用文献は、読者にとって参照可能である必要がある。著者自身の未発表データで補完的に論を進めてよい場合もあり、ケースバイケースの判断が必要だが、自明ながら非公開や他者所有のデータに依存して構成されている論文は不採択とする。
 - 7) 編集委員は編集時に、前記のように引用文献の位置づけや、データの所在・公開性についても留意する必要がある。また、行政所有などのデータを使用する際には、著者は、データ所有者を共著者に加えるか、あるいは投稿に際して公開の了解を得るなどの対応をするべきである。
3. 新投稿ジャンル「レポート」投稿実現策について(意見交換)

- 1) 新しい投稿ジャンル「レポート」を 16 号から設置したが、現在、投稿数がゼロである。このレポートについては非会員でも投稿可能（規約上、原著論文などは会員限定）となっている。この誰でも投稿可能ということを、もっとアピールしてはどうか。
 - 2) 当面、小出水委員に投稿が可能な方を打診していただくが、他の編集委員も引き続き投稿促進について検討する。
 - 3) 大会要旨などからレポートとして投稿を受け付けたい発表の掘り起こしや、各委員が投稿依頼したい調査研究を推奨する作業を行う。
 - 4) 平行して、メーリングリストやニュースレターでの広報活動を展開する。
4. その他（意見交換）
- 1) 次の特集企画・時期等
 - ①土木学会の特集企画や河川技術シンポジウムとして樹林化が議論されているが、これらは応用生態の視点は少なく、水理学的な検討が多い。
 - ②一方、応用生態には水工学系の投稿は少ないが、当学会の査読および採否決定が遅いとされていることも一因かもしれない。
 - ③例えば大阪大会で自由集会を実施してもらい、その成果で特集を組むことなどを検討してはどうか。
 - ④震災については、1 月のシンポジウム（竹門理事らが主導）は特集号にする計画で進んでいるはずである。また、昨年の ELR2012 の合同シンポジウムの結果もまとめれば各学会で報告されるはずである。
 - ⑤編集委員会マターではないが、できれば早々に学会としての震災に対する立場・見解が取りまとめられ、位置づけを明示されるとよいと思っている。幹事会では、震災については今後意見の擦り合わせを行うことで話し合いが行われている。今後大会での対応も含め理事会でも議論される。
 - 2) 次期の編集委員会体制等（現委員の任期は平成 26 年 3 月 31 日まで）
 - ①編集委員会の来年度からの構成については、役員会からも意見を求める。
 - ②安定同位体や底質など化学分野のテーマが増えているので、この分野の担当できる編集委員の紹介推薦を理事会・幹事会にもお願いしたい。
 - ③現在の委員には、適当な時期に留任の打診等を行う必要がある。
 - ④編集委員会事務局で、3 月までのスケジュール案をつくって各委員に周知する。
 - ⑤今年は役員改選年で、新理事や幹事から意見を求め、その後編集委員会で体制を議論することを考えると、次回の編集委員会は大会時ではなく、11 月頃にするとも考えられる。
 - ⑥大会時（大阪）の編集委員会への委員の出席率が低い場合は、11～12 月東京開催を予定する。

以上

6-2 情報サービス委員会報告

情報サービス委員長 萱場祐一

◇情報サービス委員会を開催したので、以下にその結果を報告する。

◇開催日時等

・平成 23 年 6 月 21 日

◇出席者

・島崎幹事、萱場幹事、小川事務局長

◇概要

1) HP の維持更新について

- ・ 現在は島崎さんのみが担当
- ・ HP の維持更新については学会員で分担する体制づくりが必要.
- ・ 更新しやすい HP への移行も視野に入れる.
- ・ 中期的課題として認識、今後対応方法を考える.

2) HP で発信する内容について

- ・ 応用生態工学会はコンサルタント等が会員として重要な役割を担っている. コンサルタントの方々のサービス向上の一環として、行政の動向等でオープンにできるものは ML で発信してはどうか.
- ・ シンポの内容等を動画で配信する等のサービスも地方にいて大会に出席できない会員にとってはメリットがある.

6-3 テキスト刊行委員会経過報告

テキスト刊行委員長 萱場祐一

◇ 経過

5/21 テキスト刊行委員会開催 (応用生態工学会事務局)

- ◇ 目次構成の修正
- ◇ 対象事例の選定
- ◇ 執筆者の確認

7/21 根岸、永山、萱場で打ち合わせ (共生センター)

- ◇ 7 月中に各担当部分について詳細な目次構成の提出
- ◇ 使用する図面の抽出、図面がない場合にはラフなスケッチを行うことを約束
(参考) ラフスケッチからイラストの作成 1 点、25,000 円

◇ 今後の予定

- ◇ 8 月中に内容の重複、抜け落ち等の確認を行う.
 - ー必要な図表等の確認
 - ー特に、イラストを作成する点数等の確認 (予算執行の観点からも)
- ◇ 応用生態工学会大阪大会自由集会において上記内容等の説明

◇ 課題等

- ◇ 工程はやや遅れているが今年中には草稿を取り纏め、レビュアーに査読をお願いしたい.
- ◇ テキストとして盛り込むべきだが、知見が見当たらない部分がある.
例、低水護岸による河岸拘束が河原形成に及ぼす影響等
- ◇ 印刷・販売の仕方等の検討が遅れている.
 - ・ 図表等を PPT で会員に配信
 - ・ 簡易製本とするか、PDF での配信とするか.
 - ・ 会員と費会員との差の付け方への考慮

以上

7 書評

浅枝 隆

貧酸素水塊—現状と対策—

著者 山室真澄、石飛裕、中田喜三郎、中村由行

生物研究者 P227、2013

ISBN 978-4-915342-68-4 C3045

本書のタイトルは貧酸素水塊となっており、専門的なものとなっているが、中身は、自然水域、特に、自然停滞水域の貧酸素化を取り扱ったものである。通常、貧酸素化ということになると、難しい化学式やナビエストークスの式から誘導される水域の溶存酸素の分布等、基礎的な現象の記述に終始されがちであるが、本書の最も顕著な特徴は、こうした細部のしぐみに触れることを避けて、わが国の事例を紹介する中から、貧酸素化のもたらす弊害や対策のあり方等を示している点である。

第一章に、貧酸素化の原因についての説明はあるもののほぼすべて記述で構成されており、専門的知識がなくてもわかりやすい内容となっている。第二章では、一般の人にも分かりやすい事例の紹介に力が注がれており、本書も最も特徴的な部分である。ここでは、これまで主に日本語の雑誌等で報告されてきた内容が、グラフや図をふんだんに用いて紹介され、充実したものになっている。紹介されている事例も、ダム貯水池、諏訪湖、霞ヶ浦、琵琶湖、長良川の淡水湖沼、サロマ湖、能取湖、浜名湖、湖山池、中海・宍道湖の汽水湖、大船渡湾、東京湾、三河湾、伊勢湾、英虞湾、大阪湾、燧灘、有明海、大村湾の内湾と多岐にわたっている。その内容も、社会的背景から観測結果の紹介、著者らの考察等と合わせて紹介されており、過去の事例を知るには便利な内容となっている。難を言えば、貧酸素化で悩まされることの多いダム湖の事例が少なく、この点は残念である。

第三章では、貧酸素化解消のための対策の事例が紹介されている。紹介されている技術内容は必ずしも新しい方法というわけではないが、社会的背景等とともに説明されており、技術的なマニュアルというよりも、むしろ個々の施策面からの取り組みにとって大いに参考になるものである。

第四章では、施策面に関わる課題からの展望や課題が指摘されている。

巻末の付表には、吉村信吉によって、1925—1937 年に観測されたわが国の湖沼の諸量が掲載されている。なかなか手に入らないデータであり、利用価値が高いと考えられる。

全体が水域の貧酸素化に特化したものとなっており、海外にもこうした内容の本は見当たらない。この問題で苦慮している行政にとっても参考になるものである。

最後に、本書は、故西条八束先生がご依頼された内容と伺っている。西条先生も満足されるものとなっていると感じられる。

8 事務局より

8-1 2013 年度行事予定

4. 1	2013 年度（平成 25 年度）開始
2. 17~4. 19	海外学会派遣研究者の公募
4. 24	応用生態工学会大阪大会第 1 回実行委員会（大阪府立大学 I-site なんば）
5 月中旬	第 1 回次期役員募集・推薦委員会
5. 21	第 56 回幹事会（麹町：応用生態工学会事務所）

5. 21	応用生態工学会会誌編集委員会 (麹町：応用生態工学会事務所)
5. 21	テキスト刊行委員会 (麹町：応用生態工学会事務所)
6. 1	ニュースレター60号 発行
6 月中	次期役員・募集期間
6. 5	第 65 回理事会 (麹町NKビル2階WE C会議室)
6. 14	第 3 回遠賀川中島自然再生研究会 in 福岡 (福岡県中間市中島)
7. 1	第 2 回次期役員募集・推薦委員会
8. 1	第 57 回幹事会
8. 9	<協 賛> 平成25年度「瀬戸内海研究フォーラム in 山口」 (宇部市文化会館文化ホール)
8. 22	ニュースレター61号 発行
8. 23	第 66 回理事会
8. 26～27	第5回フィールドシンポジウム in 北海道 (応用生態札幌セミナーその8)
9.	会誌「応用生態工学 Vol. 16-1」(発行予定)
9. 2～5	<後 援> The 12th International Symposium on River Sedimentation (ISRS2013) (京都市：京都テルサ)
9. 18～21	応用生態工学会大阪大会 9 月 18 日(水)： エクスカーション 9 月 19 日(木)： ポスター発表, 自由集会 9 月 20 日(金)： 口頭発表, 特別セッション, 自由集会, 懇親会 9 月 21 日(土)： 第 17 回総会, 第 67 回理事会, 第 58 回幹事会 公開シンポジウム (大阪府立大学 I-site なんば)
9. 25	<後援> 第 6 回淡水魚保全シンポジウム淀川大会 ～地域でまもり, みんなで育む淡水魚～ (OIT ホールおよび研修棟(常翔学園大阪工業大学))
11 月 8 日 (金) 9 日 (土)	第 12 回 北信越現地ワークショップ in 福井 越前・若狭の里山とその保全・再生 (コウノトリを視軸として) 11 月 8 日 (金)： ワークショップ (南越前町 南条文化会館) 11 月 9 日 (土)： 現地見学 (日野川魚道群、越前市エコビレッジ交流センター、 吉野瀬川ダム事業関連ビオトープ、コウノトリ飼育施設)
11 月上旬	2013 年 応用生態工学会金沢 勉強会
12. 上旬	九州地区事例発表会 in 福岡 (福岡市内で開催予定)
12. 11	ニュースレター62号 発行 (予定) (大会特集)
12	会誌「応用生態工学 Vol. 16-2」(発行予定)
2.	第 68 回理事会 (予定)
2.	ニュースレター63号 発行 (予定)

2～	2014 年度海外学会派遣者募集（予定）
2013 年度終了	2013 年度終了

8-2 変更したメールアドレス登録のお願い

本ニュースレターは、学会ホームページにアップロードした PDF ファイルの URL を、登録頂いたメールアドレスに送信していくこととなっております。

まだ、メールアドレスをご連絡頂いていない会員の方には、引き続きメールアドレスの登録をお願いいたします。経費削減対策の一つとなっておりますので、できるだけ電子配信にご協力下さい。

また、せっかく会費をお支払い頂いておりながら、アドレスエラーや転居先不明でニュースレターや学会誌が戻ってくるケースが数十件あります。転居等されましたら、新しいご連絡先をお教え下さい。

変更したメールアドレスを登録する場合は、下記の学会ホームページからお知らせ下さい。

- 会員登録情報変更連絡フォーム

<http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

[2013 年 7 月 26 日現在会員数]

個人会員

名誉会員： 4 名
正 会 員： 1005 名
学生会員： 101 名
合 計： 1110 名 28 社、42 口

賛助会員

賛助会員： 28 社 (42 口)

